

# 人権問題に関する別府市民意識調査 報告書



平成23年3月

別府市生活環境部人権同和教育啓発課



## はじめに

別府市では、平成6年（1994年）第3回市議会において「部落差別撤廃」を宣言し、平成8年（1996年）3月には「別府市部落差別等をなくし人権を擁護する条例」を制定して、日本国憲法の理念にのっとり、差別のない平和で明るい国際観光温泉文化都市の実現に向け、取り組んできました。

世界大戦以後、国際的な人権意識の高まりにより、国際連合が、昭和23年（1948年）12月に人権を尊重し自由を確保するために「世界人権宣言」を、平成6年12月には「人権教育のための国連10年」の決議が採択され、別府市においても国および他の地方公共団体と連携して国内行動計画を積極的に推進するものであります。

この具体的な取り組みとして、「人権教育のための国連10年・別府市行動計画」を平成11年（1999年）9月に策定して、人権が尊重されるこころ豊かなまちづくりの推進を、全庁体制で取り組んできました。

現況では、平成12年（2000年）12月に「人権教育及び人権啓発に関する法律」が公布・施行され、平成14年（2002年）3月に「人権教育・啓発に関する基本計画」を閣議決定し、別府市においては平成19年（2007年）2月に「別府市人権教育及び人権啓発基本計画」を策定し、住む人も訪れる人もいきいきと輝き、共に生きる喜びを実感できるまちづくりを推進しています。

市民意識調査は、平成6年12月に第1回目を、その後5年をめぐりに実施しており、今回が4回目となります。

この間、同和問題については、平成14年3月に同和対策に関する特別措置法が失効したことで、同和問題が解決したかのような風潮がありますが、今もって関係者への差別や人権侵害の事象が起っています。

近年では、子ども、高齢者、障がい者、女性への虐待の件数が著しい伸びを示しており、新たにインターネットや携帯電話などによる人権侵害が加わり、心理的差別も増加傾向にあります。

別府市では、市民意識調査により市民のみなさまの人権意識を把握し、その結果をもとに必要とされる施策の推進を図ってまいりました。

市民のみなさまには、これまで実施してきた施策の効果や課題を明らかにするとともに、この市民意識調査の結果を報告します。

この調査結果は、別府市人権教育・啓発実施計画に反映させ、これからの別府市の人権施策の展開に活用していく予定です。

おわりに、この調査の実施にあたりまして、ご協力をいただきました市民のみなさまに心から厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

別 府 市

## 目 次

I	人権問題に関する別府市民意識調査について	1
II	人権問題に関する別府市民意識調査の結果について	1
問1	「差別をなくす運動月間」(8月)、「人権週間」(12月)を知っていますか	2
問2	市民の人権意識についてどのように思いますか	3
問3	人権問題の研修会や講演会に参加したことがありますか	4
問4	自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか	5
問5	自分の人権が侵害された内容はどのようなものですか(その1)	6
	自分の人権が侵害された内容はどのようなものですか(その2)	7
問6	「大安」や「友引」等の日本の風習についてどのように考えますか	8
問7	女性に関する人権上の事項で、特に問題があると思われるもの(その1)	9
	女性に関する人権上の事項で、特に問題があると思われるもの(その2)	10
問8	高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われること(その1)	11
	高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われること(その2)	12
問9	子どもに関する事項で、人権上問題があると思われることは何ですか(その1)	13
	子どもに関する事項で、人権上問題があると思われることは何ですか(その2)	14
問10	障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか(その1)	15
	障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか(その2)	16
問11①	同和問題について知っていますか	17
問11②	同和問題について知ったきっかけは何ですか(その1)	18
	同和問題について知ったきっかけは何ですか(その2)	19
問12	同和問題に関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか(その1)	20
	同和問題に関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか(その2)	21
問13①	ハンセン病に関する啓発のため、パネル展を実施していますが知っていますか	22
問13②	ハンセン病回復者への接し方について、どのように思いますか	23
問14	国内の人権問題で、特に関心がある問題を選んでください(その1)	24
	国内の人権問題で、特に関心がある問題を選んでください(その2)	25
問15	学校における人権教育をどのように考えますか	26
問16	人権問題に関する、より効果的な啓発活動はどのような方法が良いと思いますか	27
問17	あなたは、人権が守られる社会をつくるためにどうしたいですか	28
問18	インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか(その1)	29
	インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか(その2)	30
問19	あなた自身についておたずねします	31
III	意識調査結果と人権教育・啓発について	32
付 表		
	集計表(年代別・男女別)	37
	集計表(職業別)	39
	アンケート(質問)用紙	41

## I 人権問題に関する別府市民意識調査について

### 「人権問題に関する別府市民意識調査」について

この調査は、地域の実情を踏まえ、今後の人権教育及び人権啓発の施策策定や人権・同和問題の啓発推進に役立てるため、別府市民の人権問題に関する意識を調査したものです。平成22年8月の「差別をなくす運動月間」中に、調査票を郵送及び回収し調査を行いました。別府市の人権・同和問題に関する意識調査は、平成6年12月、平成12年8月、平成17年8月に続き、第4回目となります。

### 調査対象について

市民の有権者名簿（平成22年6月現在）から、20代、30代、40代、50代、60代以上の各年代から男女各100名、合計1,000名を無作為に抽出しました。

### 調査票の作成について

別府市が平成17年8月に実施した「市民意識調査」、平成20年7月に大分県が実施した「人権に関する県民意識調査報告書」及び他市の調査書を参考に調査票を作成しました。

## II 人権問題に関する別府市民意識調査の結果について

別府市民から無作為に抽出した対象者1,000名への発送に対し、288名から回答がありました。平成17年8月の調査での回答率が34.7%であったのに対し、今回は28.8%と低くなっています。なお、転居先が不明とされた人は9名で、0.9%ありました。

回答者数（回答率）を男女別にみると、男性は500名中96名（19.2%）、女性は500名中186名（37.2%）が回答しています。また、記入漏れにより性別・年代・職業のいずれかの不明者が7名ありました。年代別の回答者数は下記の通りです。

20代	40名	（回答率 20.0%）	（各年代とも200名に発送）
30代	55名	（回答率 27.5%）	
40代	48名	（回答率 24.0%）	
50代	71名	（回答率 35.5%）	
60代以上	68名	（回答率 34.0%）	
年代無記入者	6名		

また、職業別に占める回答者数及び割合をみると、下記の通りです。

①民間の会社や工場に勤めている	80名	（27.8%）
②自営業（農業・林業・漁業を含む）及び家族従業員	28名	（9.7%）
③官公庁（国、県市町村の機関）か学校に勤めている	23名	（8.0%）
④臨時やパートで働いている	49名	（17.0%）
⑤主婦・主夫	46名	（16.0%）
⑥学生	12名	（4.2%）
⑦無職	26名	（9.0%）
⑧派遣社員	2名	（0.7%）
⑨その他	16名	（5.6%）
職業無記入者	6名	（2.0%）

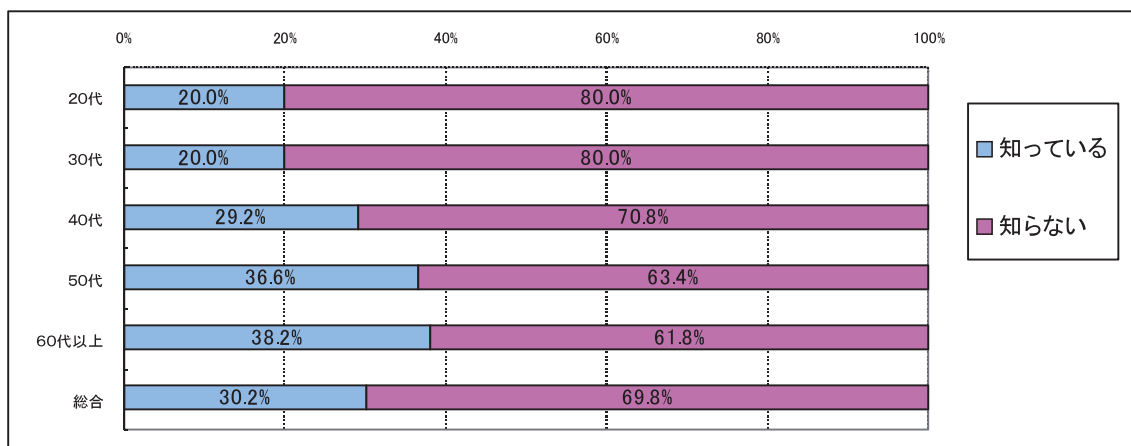
なお、性別・年代・職業のすべて、あるいはいずれかがわからない7名の回答も、集計に加えています。

問1 「差別をなくす運動月間」(8月)、「人権週間」(12月)を知っていますか。

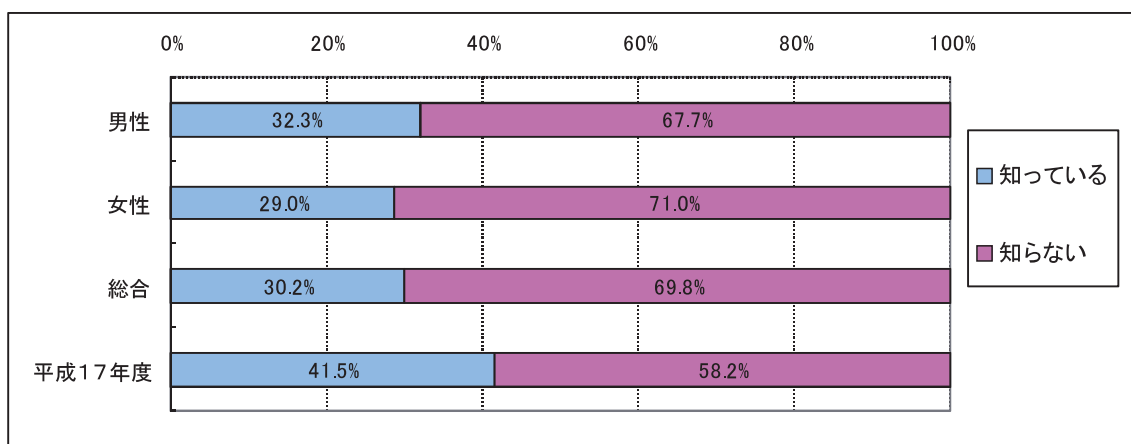
表1-1	知っている	知らない
20代	20.0%	80.0%
30代	20.0%	80.0%
40代	29.2%	70.8%
50代	36.6%	63.4%
60代以上	38.2%	61.8%
総合	30.2%	69.8%

表1-2	知っている	知らない
男性	32.3%	67.7%
女性	29.0%	71.0%
総合	30.2%	69.8%
平成17年度	41.5%	58.2%
平成12年度	39.4%	59.6%

(無回答は0.0%)



(図1-1)



(図1-2)

『「差別をなくす運動月間」(8月)、「人権週間」(12月)を知っていますか。』の質問に対して、「知っている」(30.2%)、「知らない」(69.8%)で、「知らない」と答えた人は「知っている」と答えた人の2倍以上の差が見られた。

男女別比較では、「知っている」と答えた男性が3.3%とわずかに多かった。

年齢別では、20代、30代では「知っている」が20.0%に対し、60代以上では38.2%と年代が上がるに連れわずかに多くなる傾向があった。

職業別では、官公庁・学校勤務者と自営業及び家族従業員では「知っている」が26.4%の差が出ている。

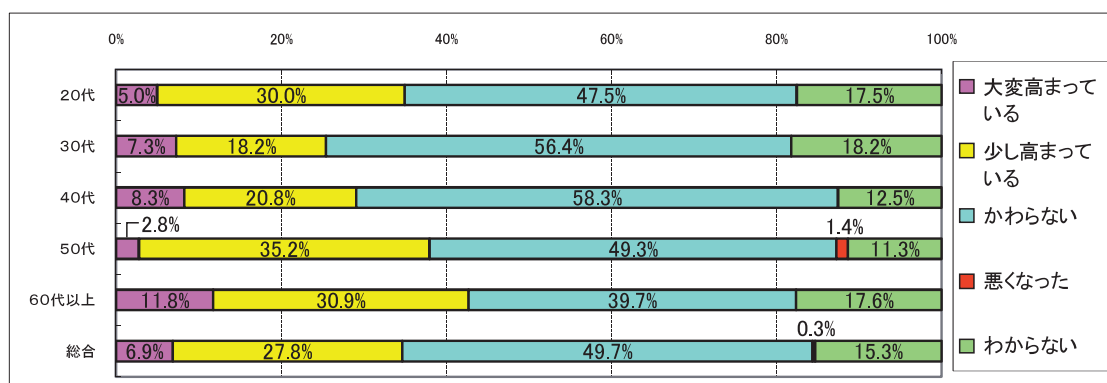
前回調査(平成17年)と比較すると、「知っている」は、11.3%と大きく減少している。

問2 市民の人権意識についてどのように思いますか。

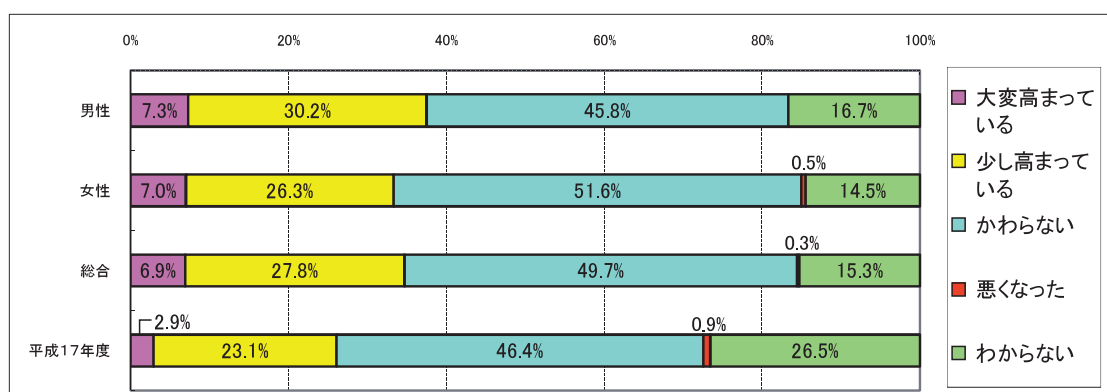
表2-1	大変高まっている	少し高まっている	かわらない	悪くなった	わからない
20代	5.0%	30.0%	47.5%	0.0%	17.5%
30代	7.3%	18.2%	56.4%	0.0%	18.2%
40代	8.3%	20.8%	58.3%	0.0%	12.5%
50代	2.8%	35.2%	49.3%	1.4%	11.3%
60代以上	11.8%	30.9%	39.7%	0.0%	17.6%
総合	6.9%	27.8%	49.7%	0.3%	15.3%

表2-2	大変高まっている	少し高まっている	かわらない	悪くなった	わからない
男性	7.3%	30.2%	45.8%	0.0%	16.7%
女性	7.0%	26.3%	51.6%	0.5%	14.5%
総合	6.9%	27.8%	49.7%	0.3%	15.3%
平成17年度	2.9%	23.1%	46.4%	0.9%	26.5%
平成12年度	3.7%	23.9%	40.4%		31.2%

(無回答は0.0%)



(図2-1)



(図2-2)

『市民の人権意識についてどのように思いますか。』については、「かわらない」(49.7%)、「少し高まっている」(27.8%)、「わからない」(15.3%)、「大変高まっている」(6.9%)、「悪くなった」(0.3%)の順であった。

年代別では、「大変高まっている」「少し高まっている」が、60代以上が42.7%と一番高いのに対し、30代が25.5%と低い割合を示している。

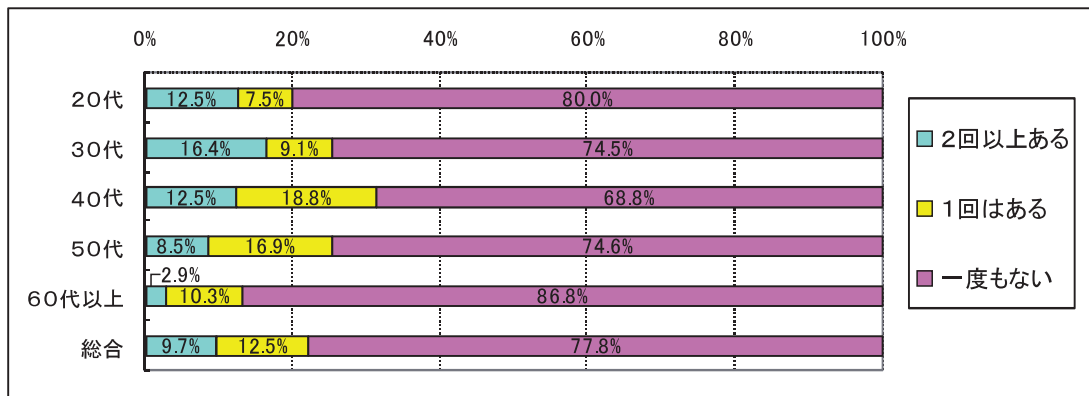
前回調査と比較すると、「大変高まっている」「少し高まっている」と回答した20代が20.0%であったが、平成22年度は35.0%と15.0%の増加を示している。「悪くなった」と回答したのは、50代だけであった。職業別では、「官公庁・学校勤務者」が56.5%と一番高く、次が「臨時・パート」で40.9%であった。

問3 人権問題の研修会や講演会に参加したことがありますか。

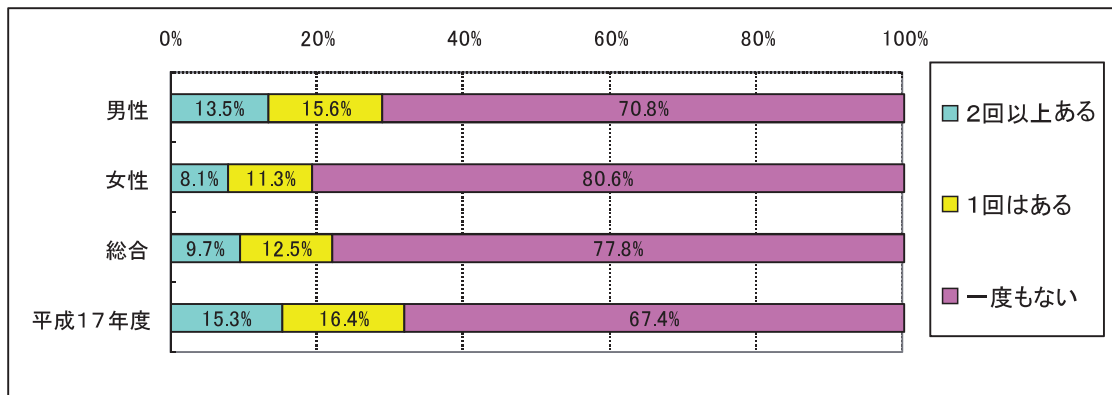
表3-1	2回以上ある	1回はある	一度もない
20代	12.5%	7.5%	80.0%
30代	16.4%	9.1%	74.5%
40代	12.5%	18.8%	68.8%
50代	8.5%	16.9%	74.6%
60代以上	2.9%	10.3%	86.8%
総合	9.7%	12.5%	77.8%

表3-2	2回以上ある	1回はある	一度もない
男性	13.5%	15.6%	70.8%
女性	8.1%	11.3%	80.6%
総合	9.7%	12.5%	77.8%
平成17年度	15.3%	16.4%	67.4%
平成12年度	15.6%	20.2%	63.3%

(無回答は0.0%)



(図3-1)



(図3-2)

『あなたは過去3年間に、人権問題の研修会や講演会に参加したことがありますか。』については、「一度もない」(77.8%)、「1回はある」(12.5%)、「2回以上ある」(9.7%)の順であった。

男女別の参加経験者は、男性が29.1%、女性が19.4%で、9.7%の差がある。

年代別の参加経験者は、40代で31.3%と一番多く、続いて50代の25.4%と続いている。

前回調査と比較すると、「一度もない」の割合が、10.4%多くなっている。また、「2回以上ある」と回答した人が、30代、40代で2割を超えていたが、今回は、2割を超えた年代はなかった。2回以上の参加回数は、10回1名、7回1名、6回2名、4回2名、3回11名であった。

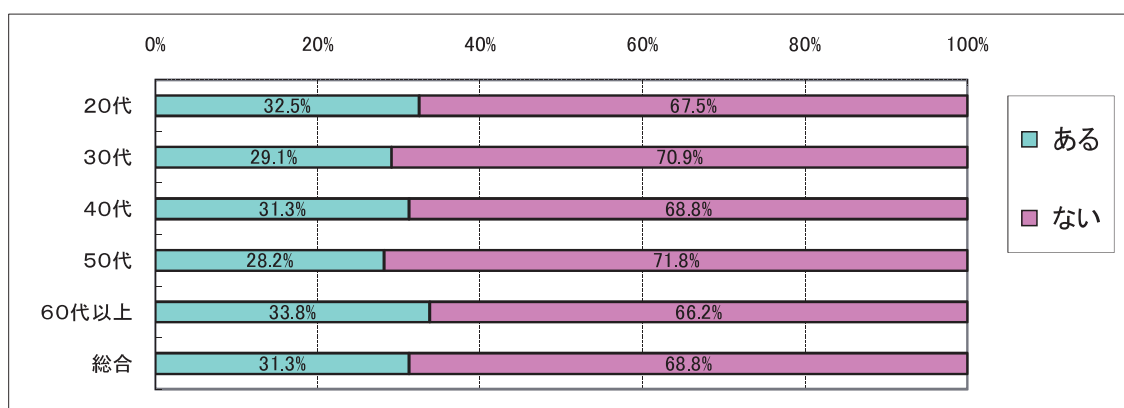


問4 自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

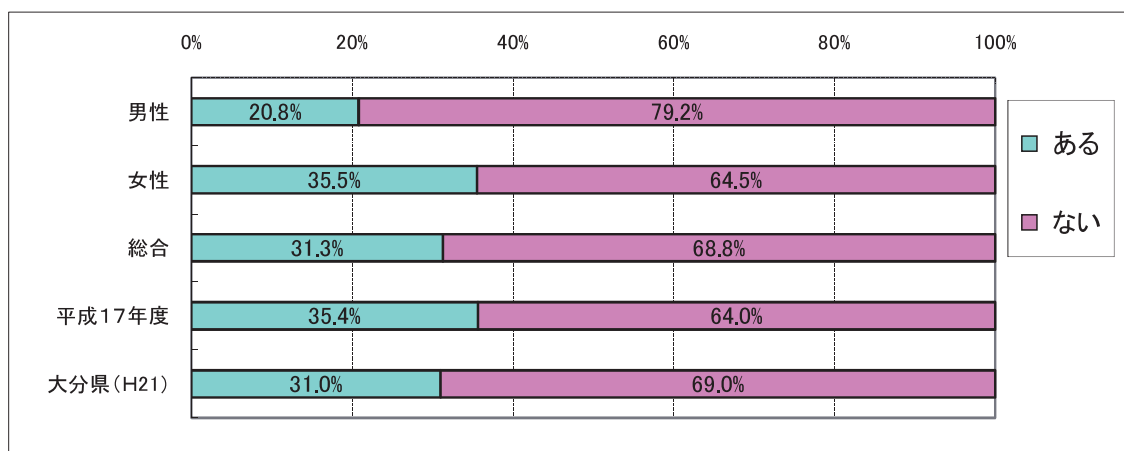
表4-1	ある	ない
20代	32.5%	67.5%
30代	29.1%	70.9%
40代	31.3%	68.8%
50代	28.2%	71.8%
60代以上	33.8%	66.2%
総合	31.3%	68.8%

表4-2	ある	ない
男性	20.8%	79.2%
女性	35.5%	64.5%
総合	31.3%	68.8%
平成17年度	35.4%	64.0%
大分県 (H21)	31.0%	69.0%

(無回答 0.0%)



(図4-1)



(図4-2)

『自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか』という問に、「ある」と回答した人は31.3%、一方「ない」と回答した人は68.8%となっている。

男女別では、「ある」と回答した男性は20.8%、女性は35.5%と、女性の方が14.7%多くなっている。

年代別では、60代以上(33.8%)、20代(32.5%)、40代(31.3%)の順となっている。

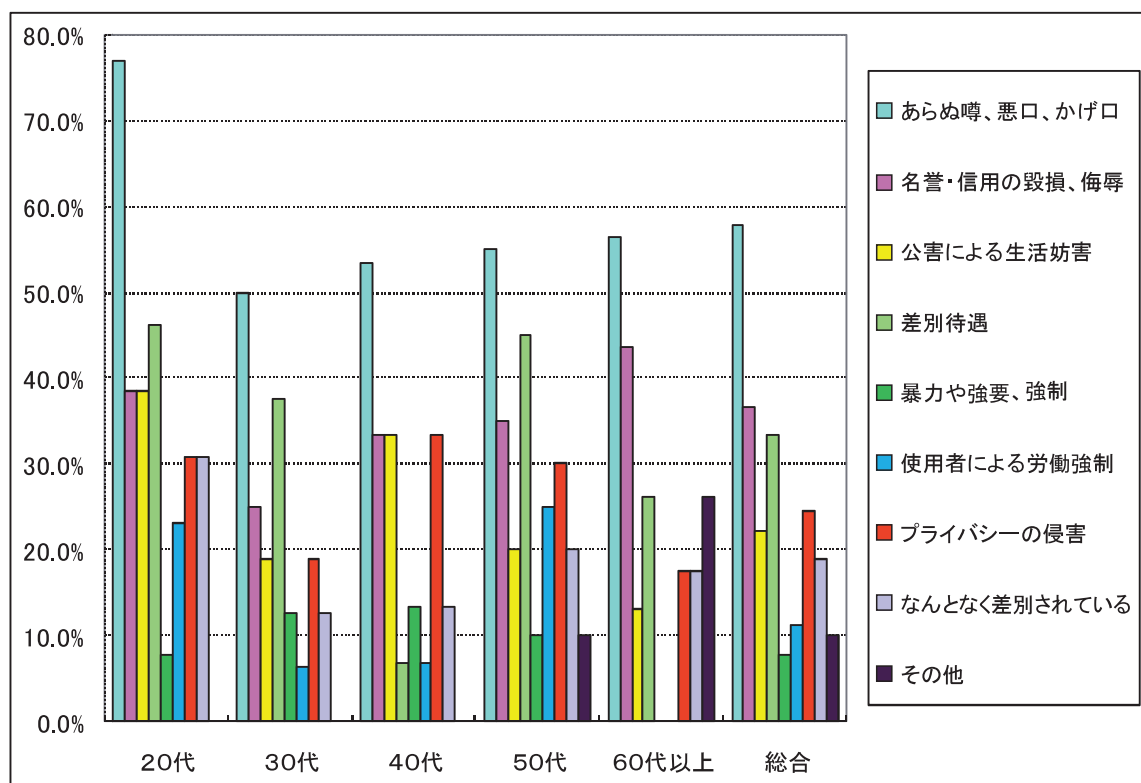
職業別では、臨時・パートの34.7%が「ある」と回答している。

前回調査との比較では、「ある」との回答が4.1%減少している。特に男性の回答は、12.5%も減少しているのが特徴である。県の調査結果とほぼ同じ割合であった。

問5 自分の人権が侵害された内容はどのようなものですか。(その1)

表5-1	あらぬ噂、悪口、かげ口	名誉・信用の毀損、侮辱	公害による生活妨害	差別待遇	暴力や強要、強制	使用者による労働強制	プライバシーの侵害	なんとなく差別されている	その他
20代	76.9%	38.5%	38.5%	46.2%	7.7%	23.1%	30.8%	30.8%	0.0%
30代	50.0%	25.0%	18.8%	37.5%	12.5%	6.3%	18.8%	12.5%	0.0%
40代	53.3%	33.3%	33.3%	6.7%	13.3%	6.7%	33.3%	13.3%	0.0%
50代	55.0%	35.0%	20.0%	45.0%	10.0%	25.0%	30.0%	20.0%	10.0%
60代以上	56.5%	43.5%	13.0%	26.1%	0.0%	0.0%	17.4%	17.4%	26.1%
総合	57.8%	36.7%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%

(複数回答)



(図5-1)

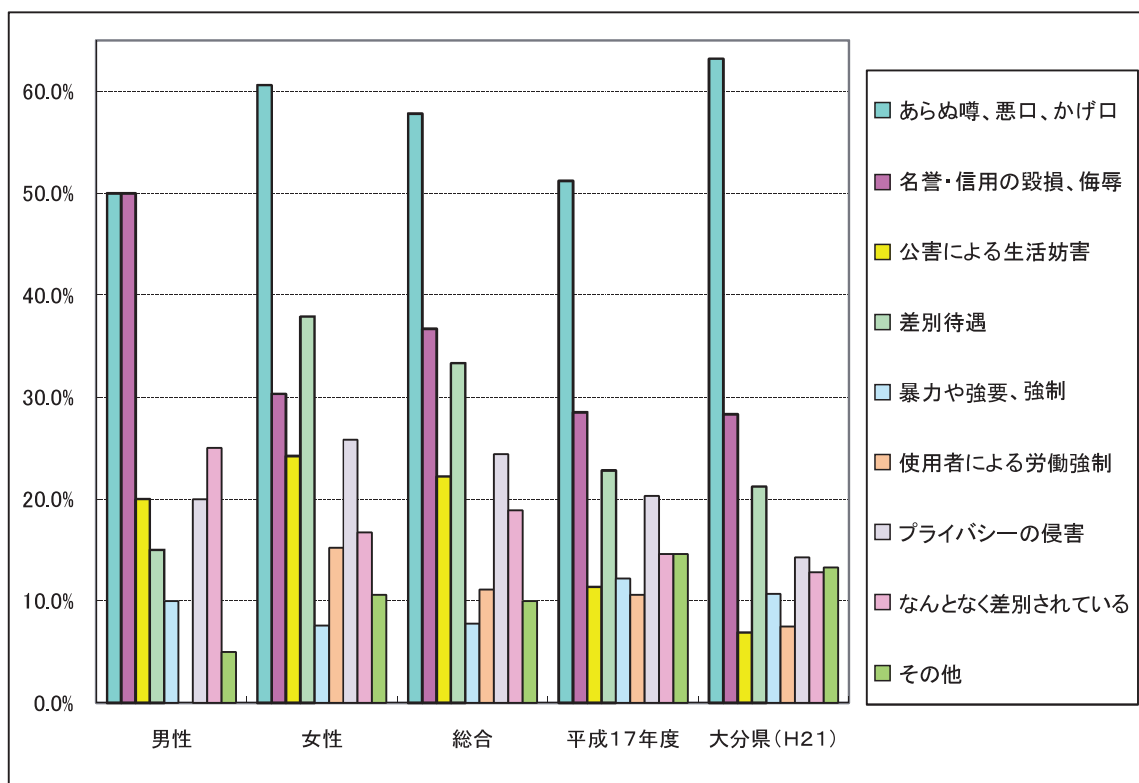
問4で、「自分の人権が侵害されたと思ったことがある」と回答した人に、具体的に人権が侵害されたと思う内容を複数回答で質問した結果、多い内容は、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(57.8%)、「名誉・信用の毀損(きそん)、侮辱(ぶじょく)」(36.7%)、「差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などで、不平等または不利益な扱いをされた)」(33.3%)「プライバシーの侵害」(24.4%)の順となっていた。この順番は、前回意識調査と同じ並びであった。

年代別では、20代では「あらぬ噂・悪口」(76.9%)がきわめて多い割合となっている。「差別待遇」(46.2%)、「なんとなく差別されている」(30.8%)も20代が一番多い。40代は、「あらぬ噂・悪口」(53.3%)に次いで、「名誉・信用の毀損」「公害による生活妨害」「プライバシーの侵害」(33.3%)となっている。50代は、「使用者による労働強制」が多くなっている。

問5 自己的人権が侵害された内容はどのようなものですか。(その2)

表5-2	あらぬ噂、悪口、かげ口	名誉・信用の毀損、侮辱	公害による生活妨害	差別待遇	暴力や強要、強制	使用者による労働強制	プライバシーの侵害	なんとなく差別されている	その他
男性	50.0%	50.0%	20.0%	15.0%	10.0%	0.0%	20.0%	25.0%	5.0%
女性	60.6%	30.3%	24.2%	37.9%	7.6%	15.2%	25.8%	16.7%	10.6%
総合	57.8%	36.7%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%
平成17年度	51.2%	28.5%	11.4%	22.8%	12.2%	10.6%	20.3%	14.6%	14.6%
大分県(H21)	63.2%	28.3%	6.9%	21.2%	10.7%	7.5%	14.3%	12.8%	13.3%
全国(H19)	47.4%	20.2%	13.9%	13.9%	13.6%	8.0%	25.1%	1.0%	7.0%

(複数回答)



(図5-2)

『人権が侵害されたと思う内容』について男女別に比較すると、男性では「あらぬ噂・悪口・かげ口」(50.0%)と「名誉・信用の毀損、侮辱」(50.0%)が一番多く、「なんとなく差別されている」(25.0%)、「公害による生活妨害」と「プライバシーの侵害」(20.0%)と続く。女性では、多い順に「あらぬ噂・悪口・かげ口」(60.6%)、「差別待遇」(37.9%)、「名誉・信用の毀損・侮辱」(30.3%)となっている。

前回調査との比較では、「暴力や強要、強制」が、4.4%減少している以外は、いずれの人権侵害の内容も割合が増加している。

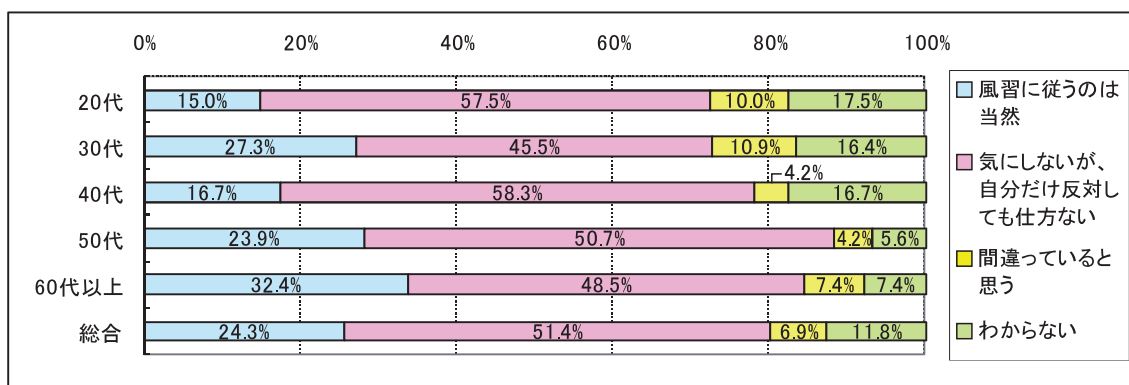
県との比較では、「あらぬ噂・悪口・かげ口」と「暴力や強要、強制」は少ないが、他の内容は、県調査よりも市の方が多くなっている。

問6 「大安」や「友引」等の日本の風習についてどのように考えますか。

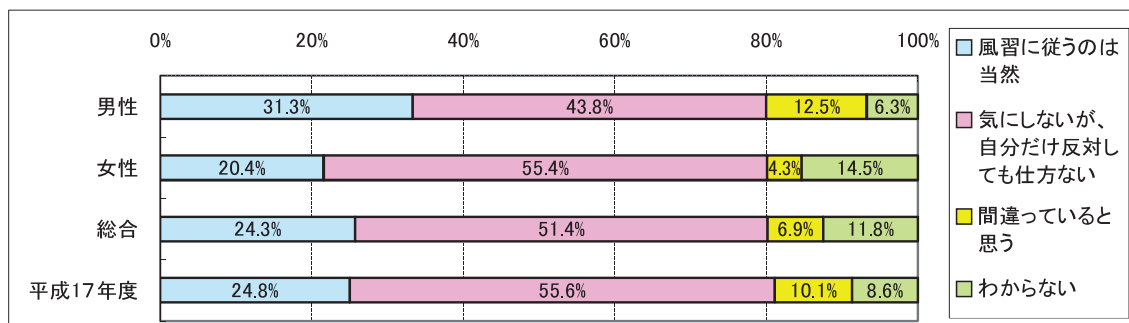
表6-1	風習に従うのは当然	気にしないが、自分だけ反対しても仕方ない	間違っていると思う	わからない
20代	15.0%	57.5%	10.0%	17.5%
30代	27.3%	45.5%	10.9%	16.4%
40代	16.7%	58.3%	4.2%	16.7%
50代	23.9%	50.7%	4.2%	5.6%
60代以上	32.4%	48.5%	7.4%	7.4%
総合	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%

表6-2	風習に従うのは当然	気にしないが、自分だけ反対しても仕方ない	間違っていると思う	わからない
男性	31.3%	43.8%	12.5%	6.3%
女性	20.4%	55.4%	4.3%	14.5%
総合	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%
平成17年度	24.8%	55.6%	10.1%	8.6%
平成12年度	21.6%	22.0%	37.2%	18.8%

(無回答は5.6%)



(図6-1)



(図6-2)

『「大安」や「友引」等の日本の風習について、どのように考えますか』については、「気にしないが、自分だけ反対しても仕方ない」(51.4%)、「風習に従うのは、当然のことと思う」(24.3%)、「わからない」(11.8%)、「間違っていると思う」(6.9%)の順となっている。

男女別では「風習に従うのは当然」が、男性の方が10.9%多く「間違っていると思う」も、男性の方が8.2%多くなっている。

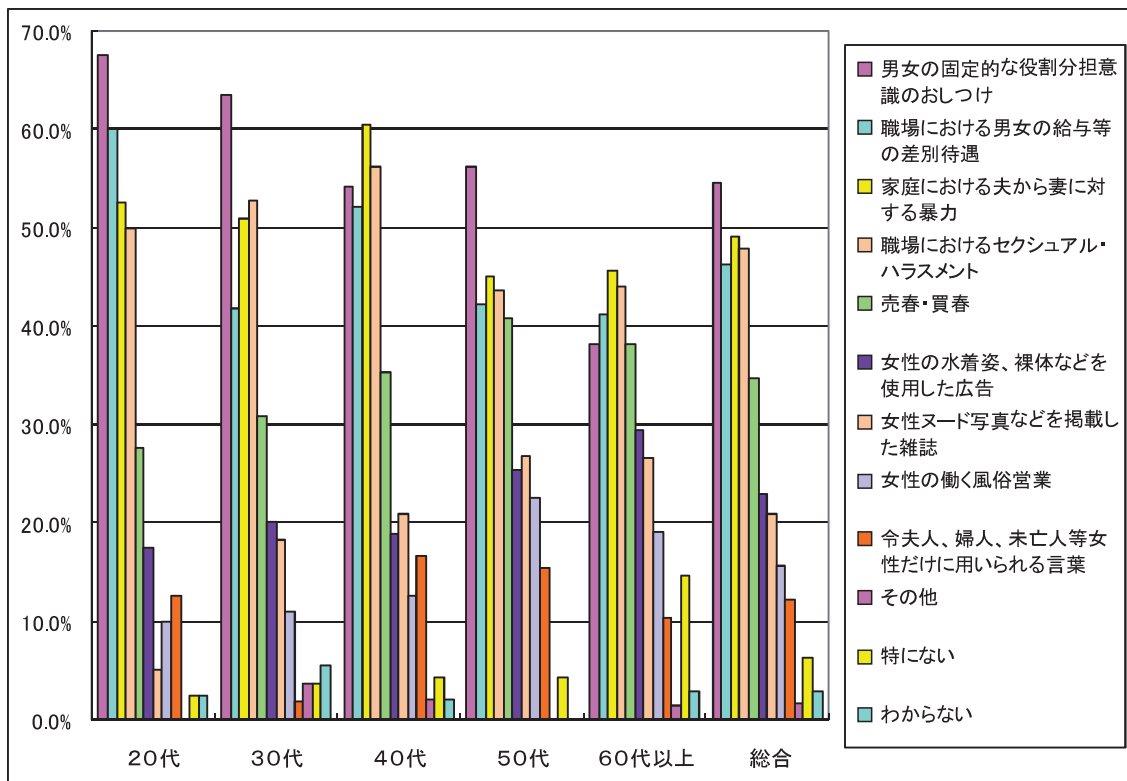
年代別では、「間違っていると思う」は、20代、30代が一番多く10.0%、10.9%で、40代以上では1ケタにとどまっている。

前回調査との比較では、「間違っていると思う」が3.2%減少し、「わからない」が同じく3.2%増加し、他は同じ傾向を示している。

問7 女性に関する人権上の事項で、特に問題があると思われるもの。(その1)

表7-1	男女の固定的な役割分担意識のおしつけ	職場における男女の給与等の差別待遇	家庭における夫から妻に対する暴力	職場におけるセクシュアル・ハラスメント	売春・買春	女性の水着姿、裸体などを使用した広告	女性ヌード写真などを掲載した雑誌	女性の働く風俗営業	令夫人、婦人、未亡人等女性だけに用いられる言葉	その他	特にない	わからない
20代	67.5%	60.0%	52.5%	50.0%	27.5%	17.5%	5.0%	10.0%	12.5%	0.0%	2.5%	2.5%
30代	63.6%	41.8%	50.9%	52.7%	30.9%	20.0%	18.2%	10.9%	1.8%	3.6%	3.6%	5.5%
40代	54.2%	52.1%	60.4%	56.3%	35.4%	18.8%	20.8%	12.5%	16.7%	2.1%	4.2%	2.1%
50代	56.3%	42.3%	45.1%	43.7%	40.8%	25.4%	26.8%	22.5%	15.5%	0.0%	4.2%	0.0%
60代以上	38.2%	41.2%	45.6%	44.1%	38.2%	29.4%	26.5%	19.1%	10.3%	1.5%	14.7%	2.9%
総合	54.5%	46.2%	49.0%	47.9%	34.7%	22.9%	20.8%	15.6%	12.2%	1.7%	6.3%	2.8%

(複数回答)



(図7-1)

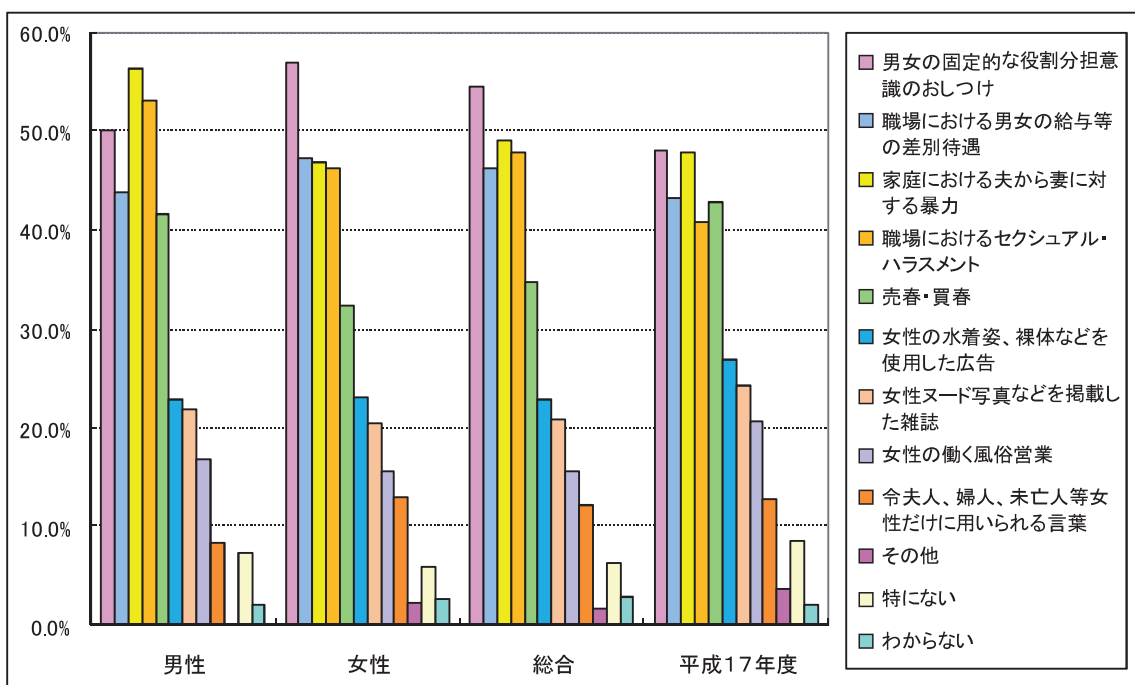
『女性に関する事項で、特に問題があると思われる内容』についての複数回答は、多い順に「男女の固定的な役割分担意識をおしつける」(54.5%)、「家庭における夫から妻に対する暴力」(49.0%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(47.9%)、「職場における男女の給与等の差別待遇」(46.2%)となっており、それぞれ40%を超えている。家庭や職場等の身近な生活の中で感じられる問題点が高い割合を占めている。

年代別に比較すると、20代、30代は「男女の固定的な役割分担意識をおしつける」が6割を超えている。40代では「家庭における夫からの妻に対する暴力」(60.4%)、50代は「男女の固定的な役割分担意識をおしつける」(56.3%)、60代以上は「家庭における夫からの妻に対する暴力」(45.6%)と年代ごとに特徴が出ている。

## 問7 女性に関する人権上の事項で、特に問題があると思われるもの。(その2)

表7-2	男女の固定的な役割分担意識のおしつけ	職場における男女の給与等の差別待遇	家庭における夫から妻に対する暴力	職場におけるセクシュアル・ハラスメント	売春・買春	女性の水着姿、裸体などを使用した広告	女性ヌード写真などを掲載した雑誌	女性の働く風俗営業	令夫人、婦人、未亡人等女性だけに用いられる言葉	その他	特にない	わからない
男性	50.0%	43.8%	56.3%	53.1%	41.7%	22.9%	21.9%	16.7%	8.3%	0.0%	7.3%	2.1%
女性	57.0%	47.3%	46.8%	46.2%	32.3%	23.1%	20.4%	15.6%	12.9%	2.2%	5.9%	2.7%
総合	54.5%	46.2%	49.0%	47.9%	34.7%	22.9%	20.8%	15.6%	12.2%	1.7%	6.3%	2.8%
平成17年度	48.1%	43.2%	47.8%	40.9%	42.9%	26.8%	24.2%	20.7%	12.7%	3.7%	8.4%	2.0%
大分県 (H21)	44.1%	40.7%	37.4%	33.1%	26.8%	18.7%	24.9%	17.2%	11.6%	2.5%	10.4%	5.5%
全国(H19)	30.6%	41.7%	33.2%	33.1%	27.2%	14.3%	19.0%	17.3%	11.3%	0.4%	13.3%	4.5%

(複数回答)



(図7-2)

男女別に比較すると、男性では「家庭における夫から妻に対する暴力」(56.3%)、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(53.1%)、「男女の固定的な役割分担意識をおしつける」(50.0%)の順となっている。これに対して、女性では「男女の固定的な役割分担意識をおしつける」(57.0%)、「職場における男女の給与等の差別待遇」(47.3%)、「家庭における夫から妻に対する暴力」(46.8%)の順となっており、男女間で問題があると思われる内容に違いが出ている。

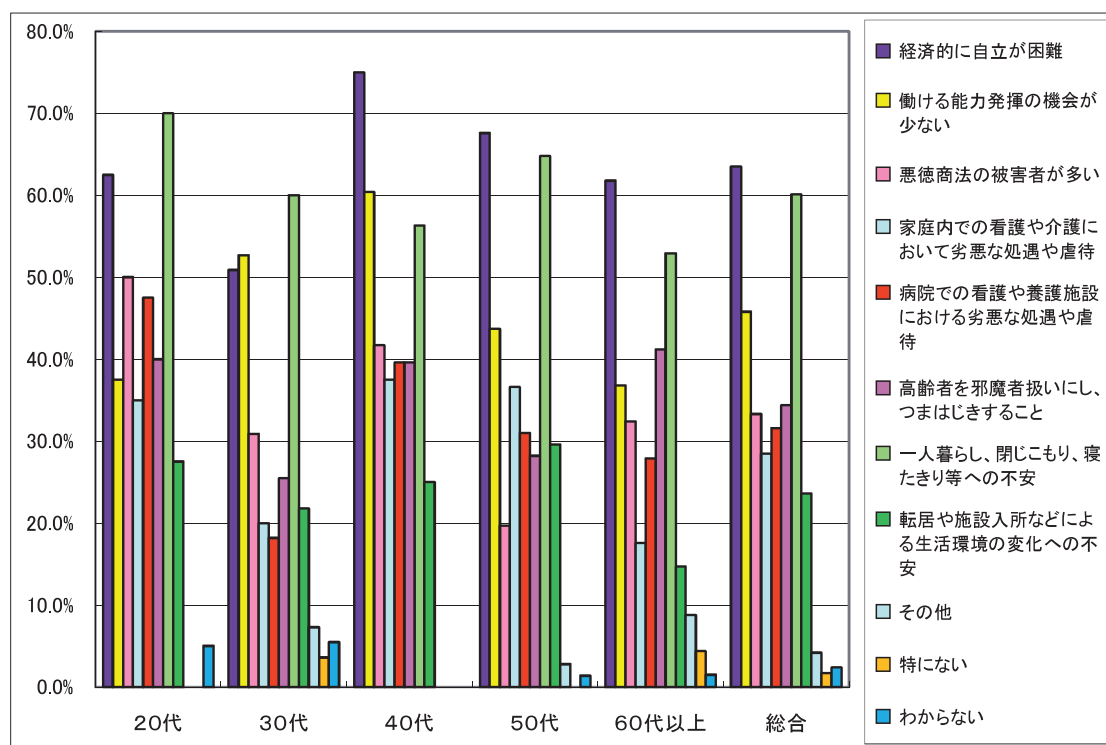
前回調査と比較すると、「売春・買春」は減少したものの、他は増加の傾向にある。

県や全国調査との比較では、市が「男女の固定的な役割分担意識の押しつけ」「職場における男女の給与等の差別待遇」「家庭における夫から妻に対する暴力」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「売春・買春」等いずれも高い割合を占めている。一方、「女性の働く風俗営業」(15.6%)は、県や全国調査より低い数値を示している。

問8 高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われること。(その1)

表8-1	経済的に自立が困難	働ける能力発揮の機会が少ない	悪徳商法の被害者が多い	家庭内での看護や介護において劣悪な処遇や虐待	病院での看護や養護施設における劣悪な処遇や虐待	高齢者を邪魔者扱いにし、つまはじきすること	一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安	転居や施設入所などによる生活環境の変化への不安	その他	特にな	わからない
20代	62.5%	37.5%	50.0%	35.0%	47.5%	40.0%	70.0%	27.5%	0.0%	0.0%	5.0%
30代	50.9%	52.7%	30.9%	20.0%	18.2%	25.5%	60.0%	21.8%	7.3%	3.6%	5.5%
40代	75.0%	60.4%	41.7%	37.5%	39.6%	39.6%	56.3%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代	67.6%	43.7%	19.7%	36.6%	31.0%	28.2%	64.8%	29.6%	2.8%	0.0%	1.4%
60代以上	61.8%	36.8%	32.4%	17.6%	27.9%	41.2%	52.9%	14.7%	8.8%	4.4%	1.5%
総合	63.5%	45.8%	33.3%	28.5%	31.6%	34.4%	60.1%	23.6%	4.2%	1.7%	2.4%

(複数回答)



(図8-1)

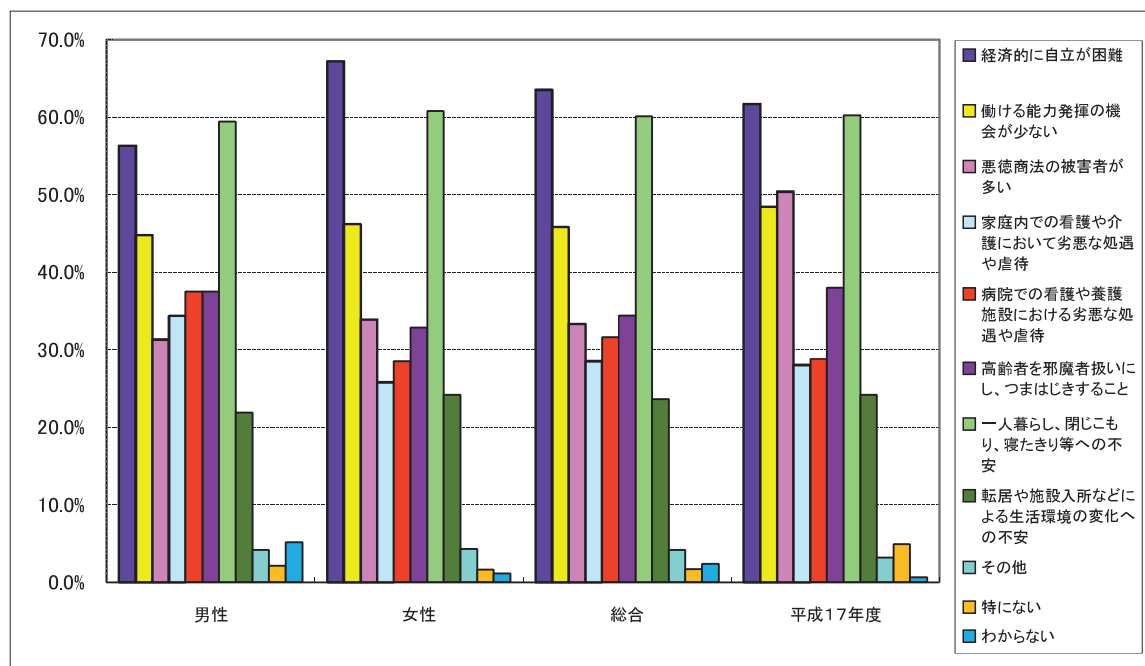
『高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われること』に対して、回答が多かったのは、「経済的に自立が困難なこと」(63.5%)、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれによる不便があること」で(60.1%)、「働ける能力発揮の機会が少ない」(45.8%)、「高齢者を邪魔者扱いにし、つまはじきすること」(34.4%)の順となっている。

年代別では、40代、50代、60代以上の高年齢層は、「経済的に自立が困難なこと」の項目を一番にあげ、20代、30代の若年齢層は、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれによる不便があること」を一番目にあげている。

問8 高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われること。(その2)

表8-2	経済的に自立が困難	働ける能力発揮の機会が少ない	悪徳商法の被害者が多い	家庭内での看護や介護において劣悪な処遇や虐待	病院での看護や養護施設における劣悪な処遇や虐待	高齢者を邪魔者扱いにし、つまはじきすること	一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安	転居や施設入所などによる生活環境の変化への不安	その他	特いない	わからない
男性	56.3%	44.8%	31.3%	34.4%	37.5%	37.5%	59.4%	21.9%	4.2%	2.1%	5.2%
女性	67.2%	46.2%	33.9%	25.8%	28.5%	32.8%	60.8%	24.2%	4.3%	1.6%	1.1%
総合	63.5%	45.8%	33.3%	28.5%	31.6%	34.4%	60.1%	23.6%	4.2%	1.7%	2.4%
平成17年度	61.7%	48.4%	50.4%	28.0%	28.8%	38.0%	60.2%	24.2%	3.2%	4.9%	0.6%
大分県(H21)	56.7%	46.8%	51.7%	25.5%	29.8%	24.7%	56.9%	25.9%	3.3%	5.0%	4.0%
全国(H19)	39.8%	41.7%	54.3%	34.5%	41.7%	45.2%			0.3%	4.4%	1.8%

(複数回答)



(図8-2)

男女別に比較すると、男性では、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれによる不便があること」(59.4%)、「経済的に自立が困難なこと」(56.3%)、「働ける能力を発揮する機会が少ない」(44.8%)の順であり、女性では、「経済的に自立が困難なこと」(67.2%)、「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれによる不便があること」(60.8%)、「働ける能力を発揮する機会が少ない」(46.2%)となっている。一部順序の違いがあるものの、この3つの項目が男女とも40%を越す高い割合を占めている。

前回調査と比較すると、「悪徳商法の被害者が多いこと」は、前回よりも17.1%減少しているが、他の項目はほぼ同じ割合である。

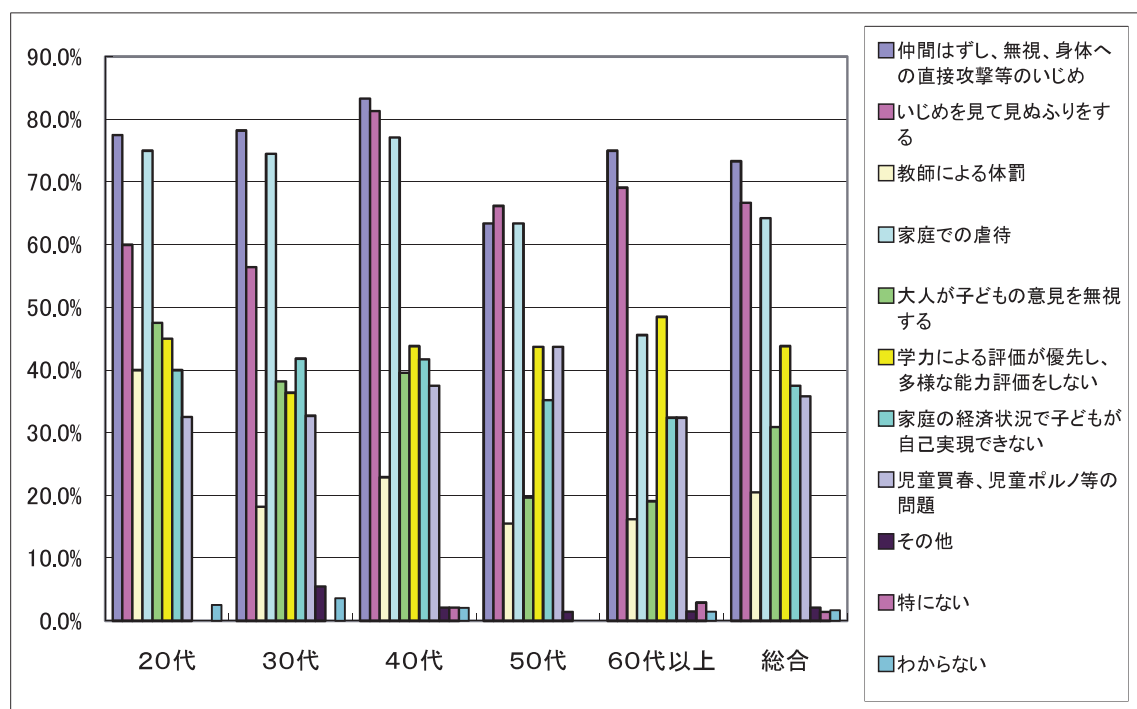
県調査との比較では、「悪徳商法の被害者が多いこと」は、市の方が低い数値を示しているが、他の項目では県よりも高くなっている。



問9 子どもに関する事項で、人権上問題があると思われることは何ですか。(その1)

表9-1	仲間はずし、無視、身体への直接攻撃等のいじめ	いじめを見て見ぬふりをする	教師による体罰	家庭での虐待	大人が子どもの意見を無視する	学力による評価が優先し、多様な能力評価をしない	家庭の経済状況で子どもが自己実現できない	児童買春、児童ポルノ等の問題	その他	特にない	わからない
20代	77.5%	60.0%	40.0%	75.0%	47.5%	45.0%	40.0%	32.5%	0.0%	0.0%	2.5%
30代	78.2%	56.4%	18.2%	74.5%	38.2%	36.4%	41.8%	32.7%	5.5%	0.0%	3.6%
40代	83.3%	81.3%	22.9%	77.1%	39.6%	43.8%	41.7%	37.5%	2.1%	2.1%	2.1%
50代	63.4%	66.2%	15.5%	63.4%	19.7%	43.7%	35.2%	43.7%	1.4%	0.0%	0.0%
60代以上	75.0%	69.1%	16.2%	45.6%	19.1%	48.5%	32.4%	32.4%	1.5%	2.9%	1.5%
総合	73.3%	66.7%	20.5%	64.2%	30.9%	43.8%	37.5%	35.8%	2.1%	1.4%	1.7%

(複数回答)



(図9-1)

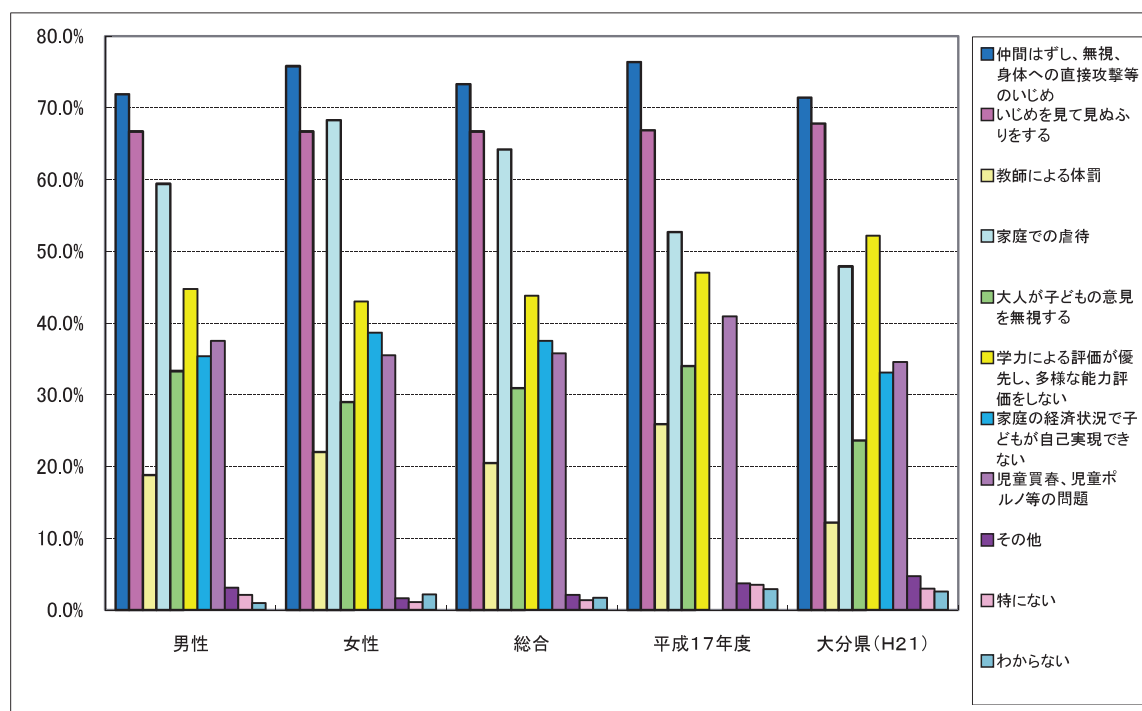
『子どもに関する事項で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか』(複数回答)については、「仲間はずしや無視、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなど、いじめを行う」(73.3%)、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」(66.7%)、「家庭での虐待」(64.2%)が高い割合となっている。

年代別に見ると、20代では「学校での教師による体罰」(40.0%)が、他の年代より多くとなっている。40代では「仲間はずしや無視、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなど、いじめを行う」、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」が8割を超えている。

問9 子どもに関する事項で、人権上問題があると思われることは何ですか。(その2)

表9-2	仲間はずし、無視、身体への直接攻撃等のいじめ	いじめを見て見ぬふりをする	教師による体罰	家庭での虐待	大人が子どもの意見を無視する	学力による評価が優先し、多様な能力評価をしない	家庭の経済状況で子どもが自己実現できない	児童買春、児童ポルノ等の問題	その他	特にない	わからない
男性	71.9%	66.7%	18.8%	59.4%	33.3%	44.8%	35.4%	37.5%	3.1%	2.1%	1.0%
女性	75.8%	66.7%	22.0%	68.3%	29.0%	43.0%	38.7%	35.5%	1.6%	1.1%	2.2%
総合	73.3%	66.7%	20.5%	64.2%	30.9%	43.8%	37.5%	35.8%	2.1%	1.4%	1.7%
平成17年度	76.4%	66.9%	25.9%	52.7%	34.0%	47.0%	40.9%	3.7%	3.5%	2.9%	
大分県(H21)	71.4%	67.8%	12.2%	47.9%	23.6%	52.2%	33.1%	34.6%	4.7%	3.0%	2.6%
全国(H19)	62.2%	68.0%	16.4%	47.7%	28.1%		37.4%	0.3%	4.1%	6.7%	

(複数回答)



(図9-2)

『子どもに関する事項で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか』についての回答を男女別に比較すると、「家庭での虐待」で、女性の割合が8.9%多くなっているほかは、ほぼ同じ傾向となっている。

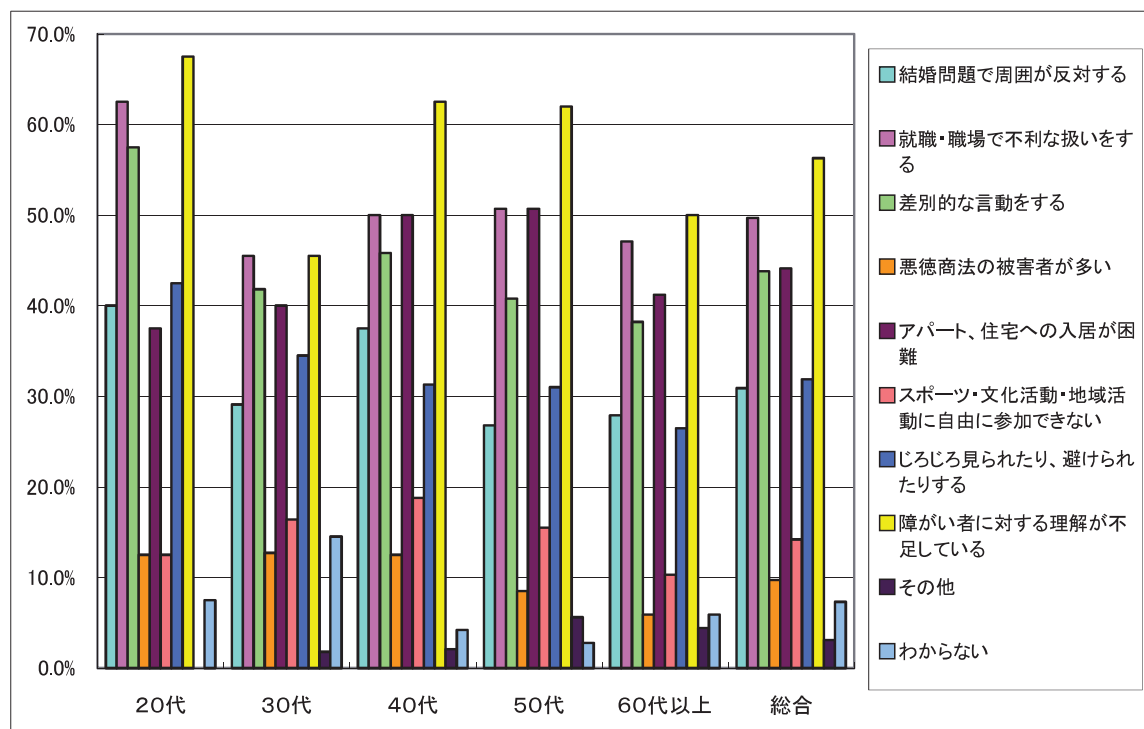
前回調査と比べると、「教師による体罰」「大人が子どもの意見を無視する」「学力による評価が優先し、多様な能力評価をしない」「児童売春買春・児童ポルノ」が減少し、「家庭での虐待」が増えている。

県調査との比較では、ほぼ同じ傾向を示しているが、「教師による体罰」や「大人が子どもの意見を無視する」の割合が高いのが特徴である。

問10 障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか。(その1)

表10-1	結婚問題で周囲が反対する	就職・職場で不利な扱いをする	差別的な言動をする	悪徳商法の被害者が多い	アパート、住宅への入居が困難	スポーツ・文化活動・地域活動に自由に参加できない	じろじろ見られたり、避けられたりする	障がい者に対する理解が不足している	その他	わからない
20代	40.0%	62.5%	57.5%	12.5%	37.5%	12.5%	42.5%	67.5%	0.0%	7.5%
30代	29.1%	45.5%	41.8%	12.7%	40.0%	16.4%	34.5%	45.5%	1.8%	14.5%
40代	37.5%	50.0%	45.8%	12.5%	50.0%	18.8%	31.3%	62.5%	2.1%	4.2%
50代	26.8%	50.7%	40.8%	8.5%	50.7%	15.5%	31.0%	62.0%	5.6%	2.8%
60代以上	27.9%	47.1%	38.2%	5.9%	41.2%	10.3%	26.5%	50.0%	4.4%	5.9%
総合	30.9%	49.7%	43.8%	9.7%	44.1%	14.2%	31.9%	56.3%	3.1%	7.3%

(複数回答)



(図10-1)

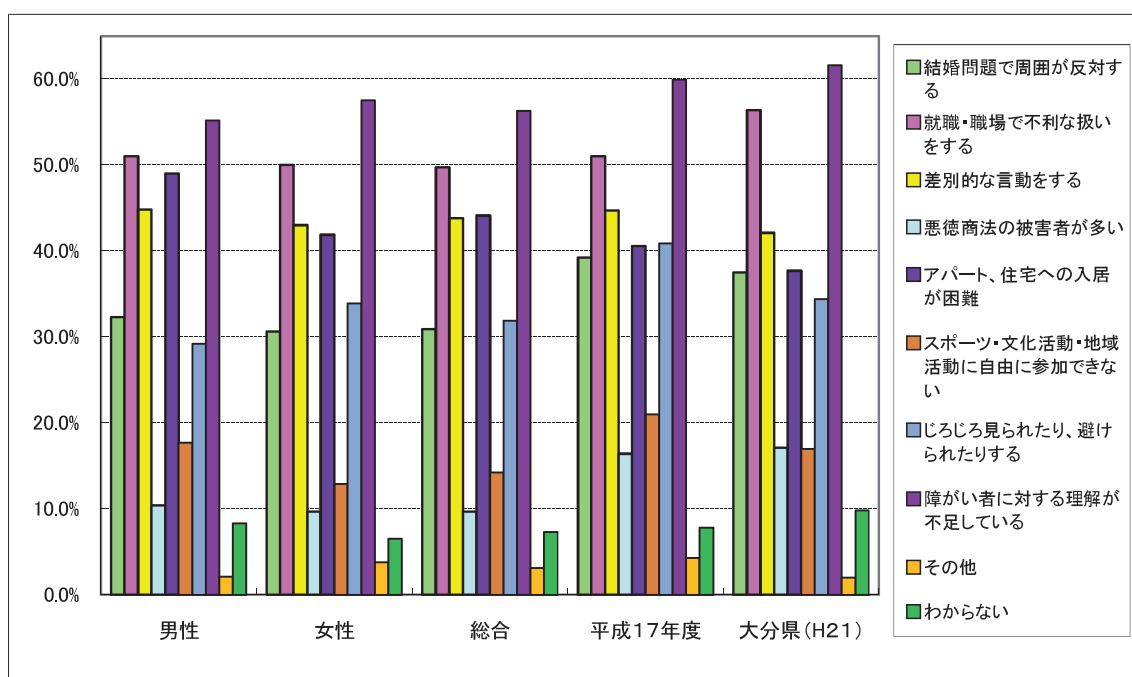
『障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか』の問に対し、多くあげられたものは、「人々の障がい者に対する理解が足りないこと」(56.3%)、「アパートなど住宅への入居が困難なこと」(44.1%)、「差別的な言動をすること」(43.8%)の順になっている。

年代別では、20代は、「就職・職場で不利な扱いをする」「結婚問題で周囲が反対すること」「差別的な言動をすること」が、他の年代より割合が高い。40代、50代では「就職・職場で不利な扱いをする」「アパートなど住宅への入居が困難なこと」が、5割を超えている。60代では、「障がい者に対する理解が不足している」以外は、他に比べ低い数値となっている。

問10 障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか。(その2)

表10-2	結婚問題で周囲が反対する	就職・職場で不利な扱いをする	差別的な言動をする	悪徳商法の被害者が多い	アパート、住宅への入居が困難	スポーツ・文化活動・地域活動に自由に参加できない	じろじろ見られたり、避けられたりする	障がい者に対する理解が不足している	その他	わからない
男性	32.3%	51.0%	44.8%	10.4%	49.0%	17.7%	29.2%	55.2%	2.1%	8.3%
女性	30.6%	50.0%	43.0%	9.7%	41.9%	12.9%	33.9%	57.5%	3.8%	6.5%
総合	30.9%	49.7%	43.8%	9.7%	44.1%	14.2%	31.9%	56.3%	3.1%	7.3%
平成17年度	39.2%	51.0%	44.7%	16.4%	40.6%	21.0%	40.9%	59.9%	4.3%	7.8%
大分県(H21)	37.5%	56.4%	42.1%	17.1%	37.7%	17.0%	34.4%	61.6%	2.0%	9.8%
全国(H19)	26.7%	53.1%	42.0%	22.4%	27.7%	15.6%	37.8%	50.4%	0.4%	9.7%

(複数回答)



(図10-2)

『障がい者について、現在の状況と人権上問題と思われることは何ですか』に対する回答を男女別に比較すると、男女とも多い順に「人々の障がい者に対する理解が足りないこと」「就職・職場で不利な扱いをする」「アパートなど住宅への入居が困難なこと」は変わらない。「スポーツ・文化活動・地域活動に自由に参加できない」は、男性の割合が高く、「じろじろ見られたり、避けられたりする」は、女性の割合が高い。

前回調査と比べると、「アパートなど住居への入居が困難なこと」が、3.5%増えているほかは、いずれも減少している。特に、「悪徳商法の被害者が多い」は、6.7%の減少となっている。

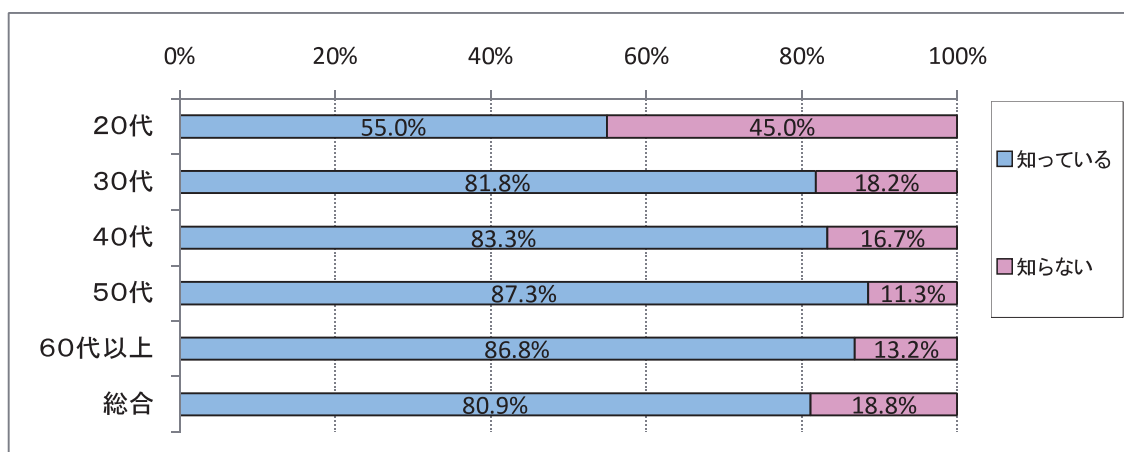
県調査と比べると、「差別的な言動をする」「アパートなどへの入居困難」が多くなっている。

問11① 同和問題について知っていますか。

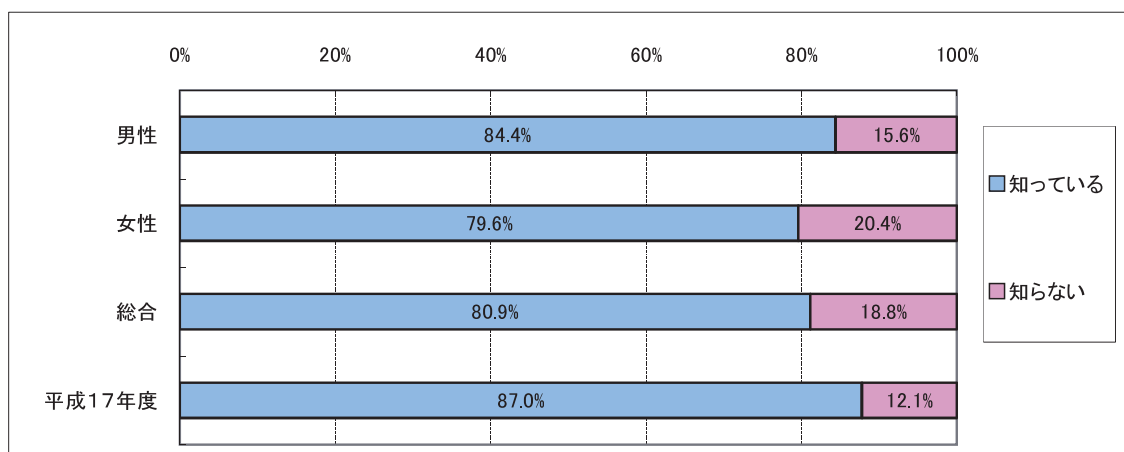
表11①-1	知っている	知らない
20代	55.0%	45.0%
30代	81.8%	18.2%
40代	83.3%	16.7%
50代	87.3%	11.3%
60代以上	86.8%	13.2%
総合	80.9%	18.8%

(無回答0.3%)

表11①-2	知っている	知らない
男性	84.4%	15.6%
女性	79.6%	20.4%
総合	80.9%	18.8%
平成17年度	87.0%	12.1%



(図11①-1)



(図11①-2)

『同和問題について知っていますか』という問いに対して、80.9%が「知っている」、18.8%が「知らない」と回答している。

年代別にみると、「知っている」は、50代(87.3%)が一番多く、「知らない」は20代(45.0%)が多い。30代は、2番目で若い世代ほど同和問題について「知らない」との回答が多く、男女比では、男性がわずかに「知っている」が多い。

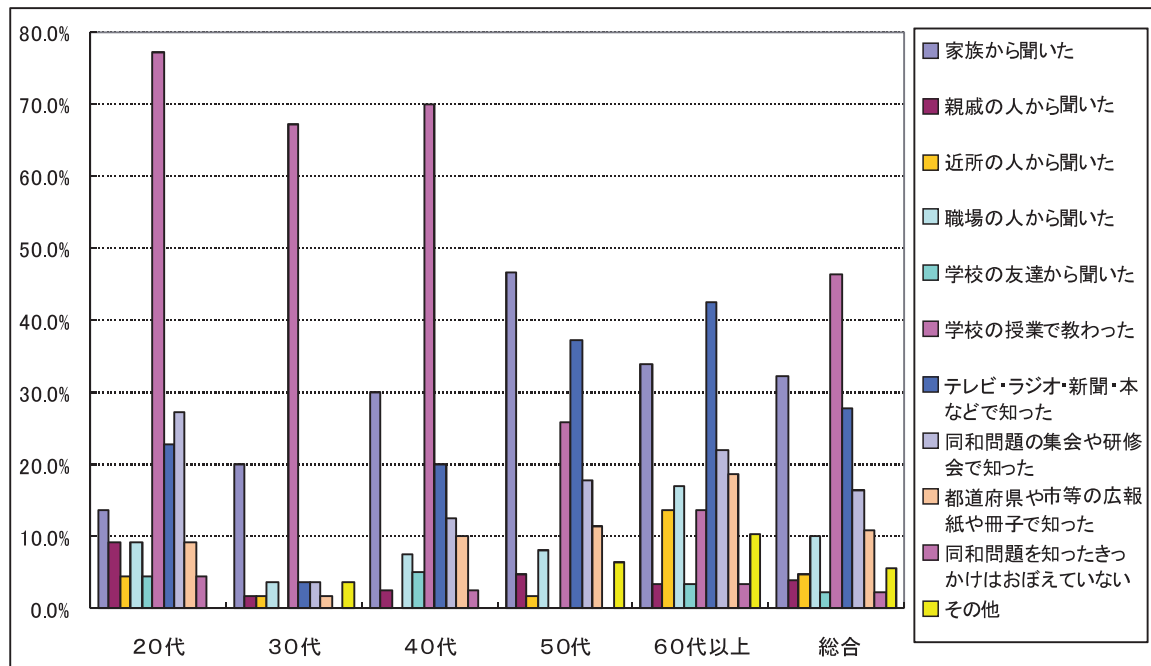
前回調査と比べ、「同和問題を知らない」との回答が6.7%多くなっている。

職業別では、学生の「知らない」が58.3%と他とかけ離れて高い割合となっている。

問11② 同和問題について知ったきっかけは何ですか。(その1)

表11②-1	家族から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友達から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	同和問題の集会や研修会で知った	都道府県や市等の広報紙や冊子で知った	同和問題を知ったきっかけはおぼえていない	その他
20代	13.6%	9.1%	4.5%	9.1%	4.5%	77.3%	22.7%	27.3%	9.1%	4.5%	0.0%
30代	20.0%	1.8%	1.8%	3.6%	0.0%	67.3%	3.6%	3.6%	1.8%	0.0%	3.6%
40代	30.0%	2.5%	0.0%	7.5%	5.0%	70.0%	20.0%	12.5%	10.0%	2.5%	0.0%
50代	46.8%	4.8%	1.6%	8.1%	0.0%	25.8%	37.1%	17.7%	11.3%	0.0%	6.5%
60代以上	33.9%	3.4%	13.6%	16.9%	3.4%	13.6%	42.4%	22.0%	18.6%	3.4%	10.2%
総合	32.2%	3.9%	4.7%	9.9%	2.1%	46.4%	27.9%	16.3%	10.7%	2.1%	5.6%

(「知っている」と回答した人に対する調査結果・複数回答)



(図11②-1)

前問で同和問題について「知っている」と回答した人を対象に『知ったきっかけは何ですか』の問いで調査した。「学校の授業で教わった」(46.4%)が最も多くなっており、「家族(祖父母、父母、兄弟など)から聞いた」(32.2%)、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」(27.9%)、「同和問題の集会や研修会で知った」(16.3%)の順番となっている。

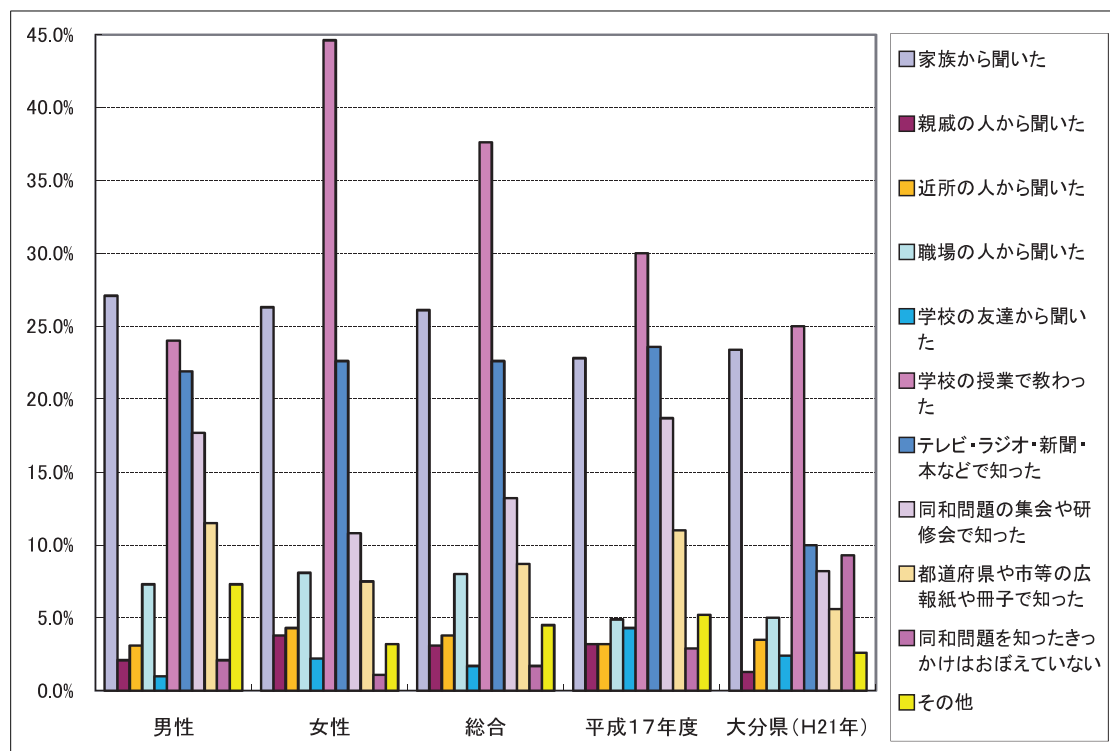
年代別比較では、20代、30代、40代の「学校の授業で教わった」が、高い割合となっており、年代が高くなるほど減少し、60代以上では「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」が最も多くなっている。また「家族から聞いた」も年代が高いほど多くなる傾向が見られる。

職業別に比較しても、無職を除いた他の職業では、同和問題を知ったきっかけとして「学校の授業で教わった」を一番目にあげている。学校における人権教育等での同和問題の扱いが重要であることを示している。

問11② 同和問題について知ったきっかけは何ですか。(その2)

表11②-2	家族から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友達から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	同和問題の集会や研修会で知った	都道府県や市等の広報紙や冊子で知った	同和問題を知ったきっかけはおぼえていない	その他
男性	27.1%	2.1%	3.1%	7.3%	1.0%	24.0%	21.9%	17.7%	11.5%	2.1%	7.3%
女性	26.3%	3.8%	4.3%	8.1%	2.2%	44.6%	22.6%	10.8%	7.5%	1.1%	3.2%
総合	26.1%	3.1%	3.8%	8.0%	1.7%	37.6%	22.6%	13.2%	8.7%	1.7%	4.5%
平成17年度	22.8%	3.2%	3.2%	4.9%	4.3%	30.0%	23.6%	18.7%	11.0%	2.9%	5.2%
大分県(H21)	23.4%	1.3%	3.5%	5.0%	2.4%	25.0%	10.0%	8.2%	5.6%	9.3%	2.6%
全国(H19)	17.8%	1.5%	1.9%	6.7%	3.9%	19.7%	13.3%	2.6%	1.8%	9.2%	1.1%

(同和問題を「知っている」及び「知らない」人両方を対象にした調査・複数回答)



(図11②-2)

『同和問題を知ったきっかけ』を、大分県や全国調査との比較を可能にするため、「知っている」及び「知らない」人を合わせた調査結果で示したため、前頁の総合と数値は違っている。

男女別に比較すると、男性は「家族から聞いた」(27.1%)が一番多く、続いて「学校の授業で教わった」(24.0%)「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」(21.9%)となっている。女性は「学校の授業で教わった」(44.6%)、「家族から聞いた」(26.3%)、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」(22.6%)となっている。

前回調査との比較では、「学校の授業で教わった」「家族から聞いた」「職場の人から聞いた」が増え、「同和問題の集会や研修会で知った」「学校の友達から聞いた」が減少している。

県や全国調査と比較すると、上位の順番は同じであるが、「学校の授業で教わった」は、県調査より市が12.6%多いなど、学校の授業の比重が高い。

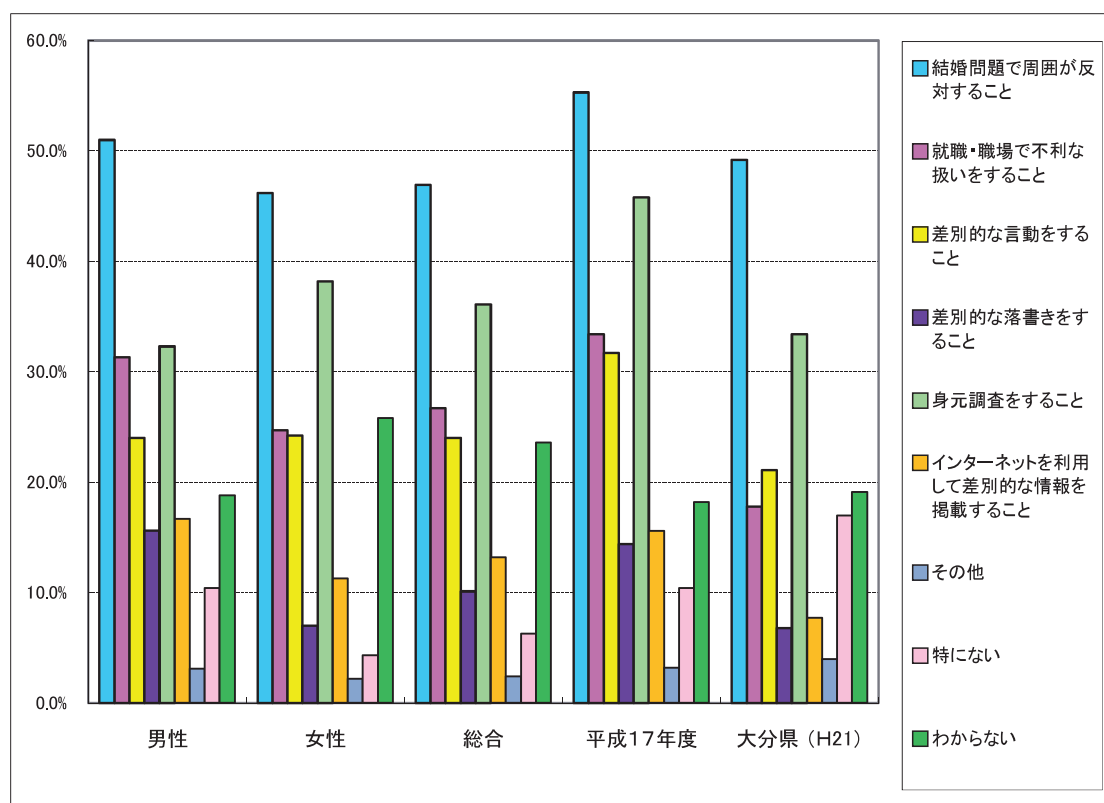




問12 同和問題に関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(その2)

表12-2	結婚問題で周囲が反対すること	就職・職場で不利な扱いをすること	差別的な言動をすること	差別的な落書きをすること	身元調査をすること	インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること	その他	特にない	わからない
男性	51.0%	31.3%	24.0%	15.6%	32.3%	16.7%	3.1%	10.4%	18.8%
女性	46.2%	24.7%	24.2%	7.0%	38.2%	11.3%	2.2%	4.3%	25.8%
総合	46.9%	26.7%	24.0%	10.1%	36.1%	13.2%	2.4%	6.3%	23.6%
平成17年度	55.3%	33.4%	31.7%	14.4%	45.8%	15.6%	3.2%	10.4%	18.2%
大分県 (H21)	49.2%	17.8%	21.1%	6.8%	33.4%	7.7%	4.0%	17.0%	19.1%
全国 (H19)	42.9%	29.8%	26.4%	9.8%	30.1%	14.5%	0.8%	14.3%	12.5%

(複数回答)



(図12-2)

『同和問題に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか』に対する回答を男女別に比較すると、男女とも「結婚問題で周囲が反対すること」、「身元調査をすること」、「就職・職場で不利な扱いをすること」、「差別的な発言をすること」と続いている。

前回調査との比較では、順番は同じであるが、すべての項目で割合が減少している。

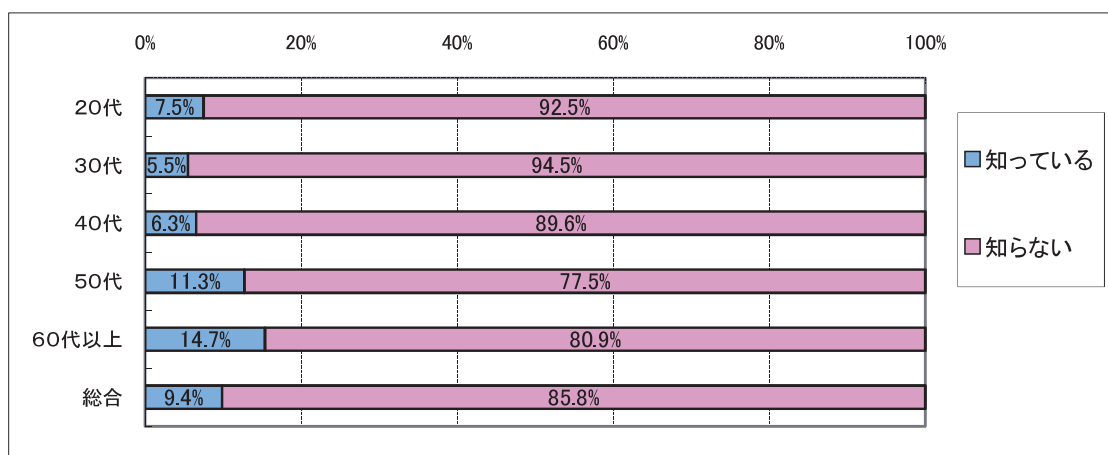
県調査と比べると、「結婚問題で周囲が反対すること」で市の割合が2.3%低いものの、他の項目では高い割合となっている。

問13① ハンセン病に関する啓発のため、パネル展を実施していますが知っていますか。

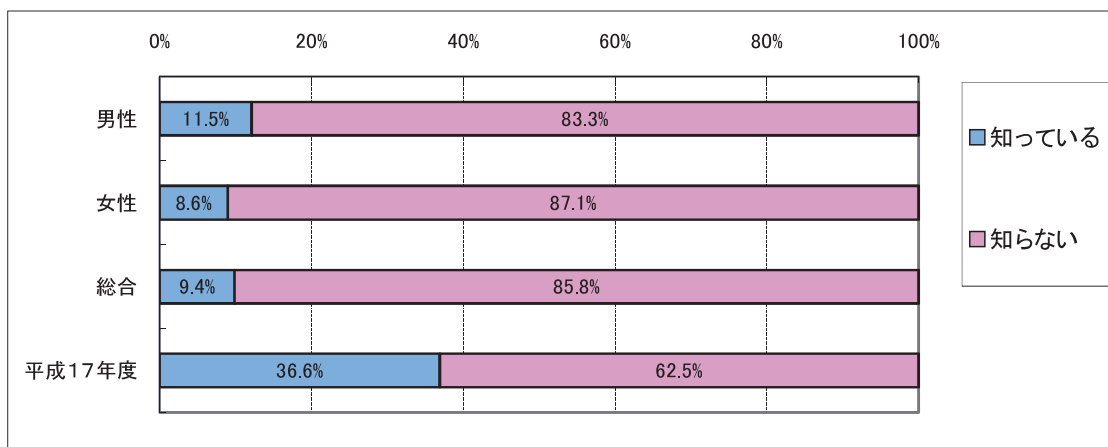
表13①-1	知っている	知らない
20代	7.5%	92.5%
30代	5.5%	94.5%
40代	6.3%	89.6%
50代	11.3%	77.5%
60代以上	14.7%	80.9%
総合	9.4%	85.8%

(無回答4.9%)

表13①-2	知っている	知らない
男性	11.5%	83.3%
女性	8.6%	87.1%
総合	9.4%	85.8%
平成17年度	36.6%	62.5%



(図13①-1)



(図13①-2)

『別府市のハンセン病に関する啓発のためのパネル展を知っていますか』について、「知っている」(9.4%)、「知らない」(85.8%)と回答している。

年代別比較では、60代の「知っている」(14.7%)が一番多く、続いて50代(11.3%)となっている。20代から40代の「知っている」は、10%に届いていない。

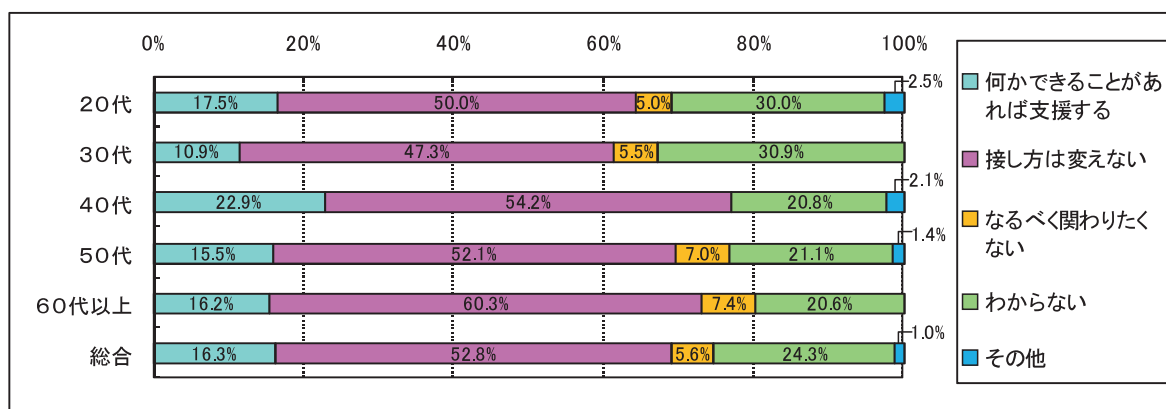
男女別では、「知っている」は、男性の方が2.9%多い。

前回調査との比較では、「知っている」が27.2%と大きく減少している。

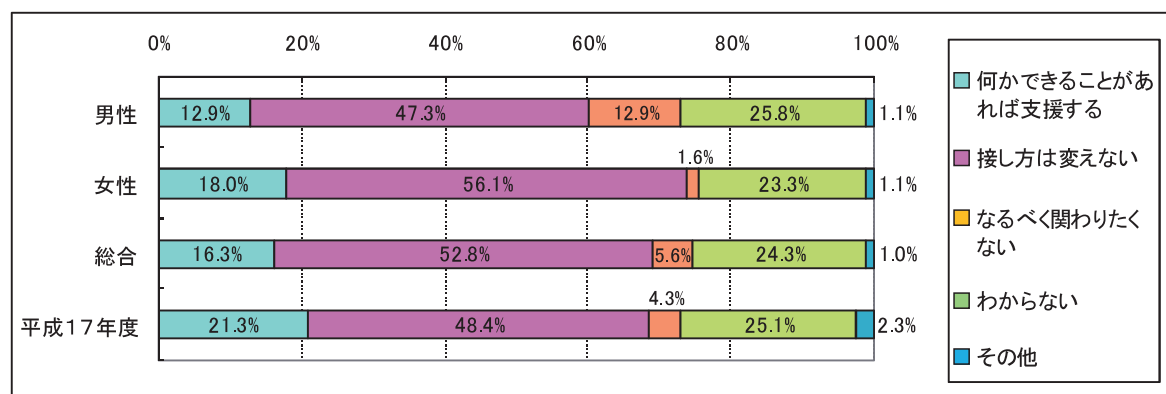
問13② ハンセン病回復者への接し方について、どのように思いますか。

表13②-1	何かできることがあれば支援する	接し方は変えない	なるべく関わりたくない	わからない	その他
20代	17.5%	50.0%	5.0%	30.0%	2.5%
30代	10.9%	47.3%	5.5%	30.9%	0.0%
40代	22.9%	54.2%	0.0%	20.8%	2.1%
50代	15.5%	52.1%	7.0%	21.1%	1.4%
60代以上	16.2%	60.3%	7.4%	20.6%	0.0%
総合	16.3%	52.8%	5.6%	24.3%	1.0%

表13②-2	何かできることがあれば支援する	接し方は変えない	なるべく関わりたくない	わからない	その他
男性	12.9%	47.3%	12.9%	25.8%	1.1%
女性	18.0%	56.1%	1.6%	23.3%	1.1%
総合	16.3%	52.8%	5.6%	24.3%	1.0%
平成17年度	21.3%	48.4%	4.3%	25.1%	2.3%



(図13②-1)



(図13②-2)

『ハンセン病回復者への接し方について、どのように思いますか』について、「ハンセン病回復者だからと言って、接し方は変えない」（52.8%）、「わからない」（24.3%）、「何かできることがあれば支援する」（16.3%）と続いている。「なるべく関わりたくない」は5.6%であった。

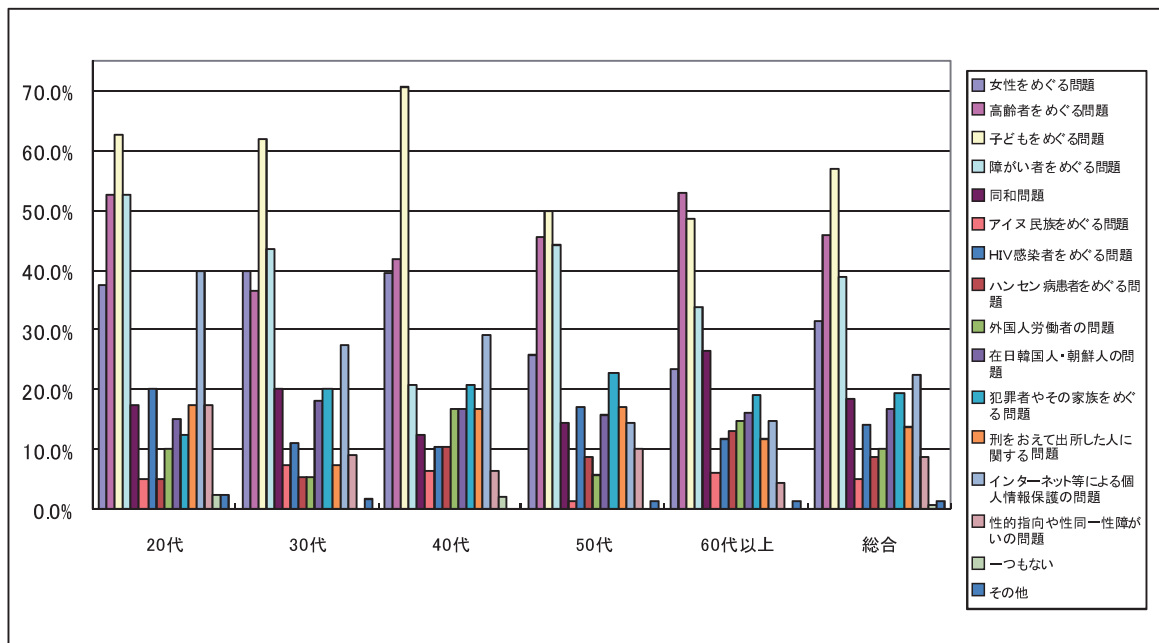
年代別では、40代で「何かできることがあれば支援する」が一番多く、「なるべく関わりたくない」も全くないのが特徴である。

男女別の比較では、「何かできることがあれば支援する」「接し方は変えない」は女性が多く、「なるべく関わりたくない」は男性が多くなっている。

問14 国内の人権問題で、特に関心がある問題を選んでください。(その1)

表14-1	女性をめぐ る問題	高齢者 をめぐ る問題	子ども をめぐ る問題	障がい 者をめ ぐる問 題	同和 問題	アイヌ 民族を めぐる 問題	HIV感 染者を めぐる 問題	ハンセ ン患者 者をめ ぐる問 題	外国人 労働者 の問題	在日韓 国人・ 朝鮮人 の問題	犯罪者 やその 家族を めぐる 問題	刑をお えて出 所した 人に関 する問 題	インタ ーネット 等によ る個人 情報保 護の問 題	性的指 向や性 同一性 障がい の問題	一つも ない	その他
20代	37.5%	52.5%	62.5%	52.5%	17.5%	5.0%	20.0%	5.0%	10.0%	15.0%	12.5%	17.5%	40.0%	17.5%	2.5%	2.5%
30代	40.0%	36.4%	61.8%	43.6%	20.0%	7.3%	10.9%	5.5%	5.5%	18.2%	20.0%	7.3%	27.3%	9.1%	0.0%	1.8%
40代	39.6%	41.7%	70.8%	20.8%	12.5%	6.3%	10.4%	10.4%	16.7%	16.7%	20.8%	16.7%	29.2%	6.3%	2.1%	0.0%
50代	26.8%	46.5%	50.7%	45.1%	14.1%	1.4%	16.9%	8.5%	5.6%	15.5%	22.5%	16.9%	14.1%	9.9%	0.0%	1.4%
60代以上	23.5%	52.9%	48.5%	33.8%	26.5%	5.9%	11.8%	13.2%	14.7%	16.2%	19.1%	11.8%	14.7%	4.4%	0.0%	1.5%
総合	31.6%	46.2%	56.9%	38.9%	18.4%	4.9%	13.9%	8.7%	10.1%	16.7%	19.4%	13.5%	22.6%	8.7%	0.7%	1.4%

(複数回答)



(図14-1)

『国内の人権問題で、特に関心がある問題を選んでください』の問（複数回答）に対して、多かった回答は、「子どもをめぐり問題」（56.9%）、「高齢者をめぐり問題」（46.2%）、「障がい者をめぐり問題」（38.9%）、「女性をめぐり問題」（31.6%）、「インターネットなどによる個人情報やプライバシー保護の問題」（22.6%）の順番となっていた。

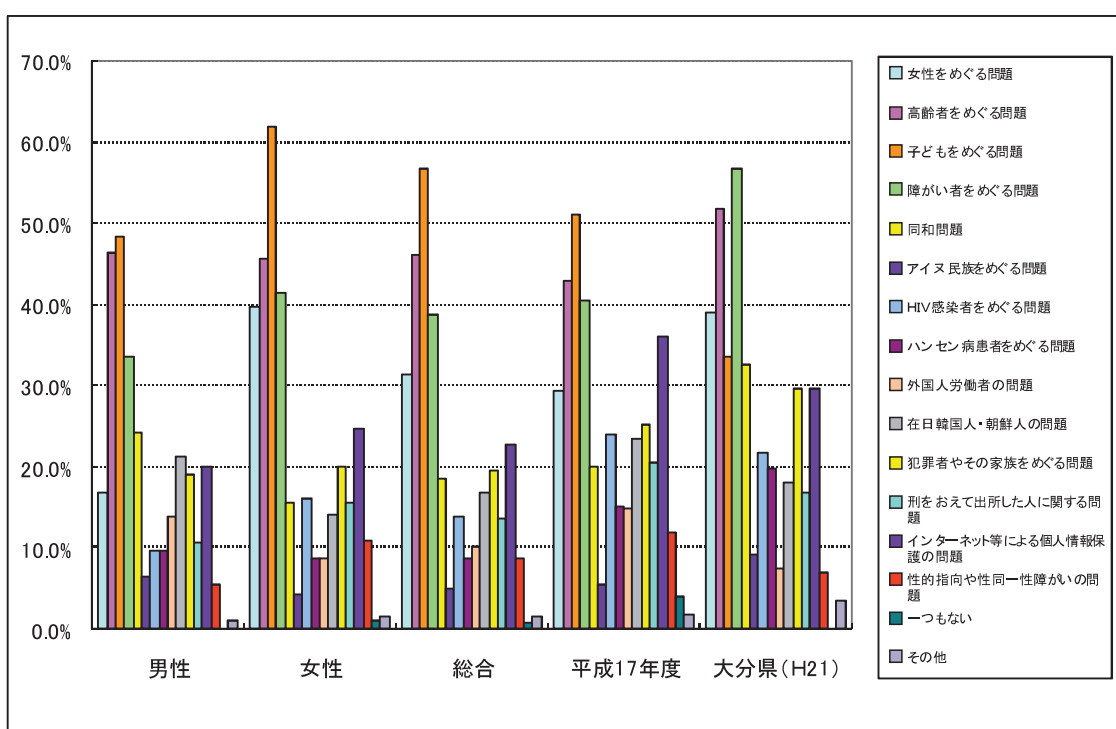
年代別比較では、20代では「インターネットなどによる個人情報やプライバシー保護の問題」が40.0%と高いのが特徴である。60代は、「高齢者をめぐり問題」が一番目になっている。

職業別の比較では、学生及び派遣社員の「インターネットなどによる個人情報やプライバシー保護の問題」が高くなっている。あらゆる職業を通して「子どもをめぐり問題」を一番目にあげている。

問14 国内の人権問題で、特に関心がある問題を選んでください。(その2)

表14 一2	女性を めぐる 問題	高齢者 をめぐ る問題	子ども をめぐ る問題	障がい 者をめ ぐる問 題	同和 問題	アイヌ 民族を めぐる 問題	HIV感 染者を めぐる 問題	ハンセ ン病患 者をめ ぐる問 題	外国人 労働者 の問題	在日韓 国人・ 朝鮮人 の問題	犯罪者 やその 家族を めぐる 問題	刑をお えて出 所した 人に関 する問 題	インタ ーネッ ト等 による 個人情 報保護 の問題	性的指 向や性 同一性 障がい の問題	一つも ない	その他
男性	17.9%	47.4%	49.5%	34.7%	24.2%	6.3%	9.4%	9.4%	13.5%	20.8%	18.8%	10.4%	19.8%	5.2%	0.0%	1.0%
女性	39.8%	45.7%	61.8%	41.4%	15.6%	4.3%	16.1%	8.6%	8.6%	14.0%	19.9%	15.6%	24.7%	10.8%	1.1%	1.6%
総合	31.6%	46.2%	56.9%	38.9%	18.4%	4.9%	13.9%	8.7%	10.1%	16.7%	19.4%	13.5%	22.6%	8.7%	0.7%	1.4%
平成17 年度	29.4%	42.9%	51.0%	40.3%	19.9%	5.5%	23.9%	15.0%	14.7%	23.3%	25.1%	20.5%	36.0%	11.8%	4.0%	1.7%
大分県 (H21)	39.0%	51.7%	33.6%	56.8%	32.6%	9.1%	21.7%	19.8%	7.3%	18.1%	29.5%	16.8%	29.5%	6.8%		3.4%

(複数回答)



(図14-2)

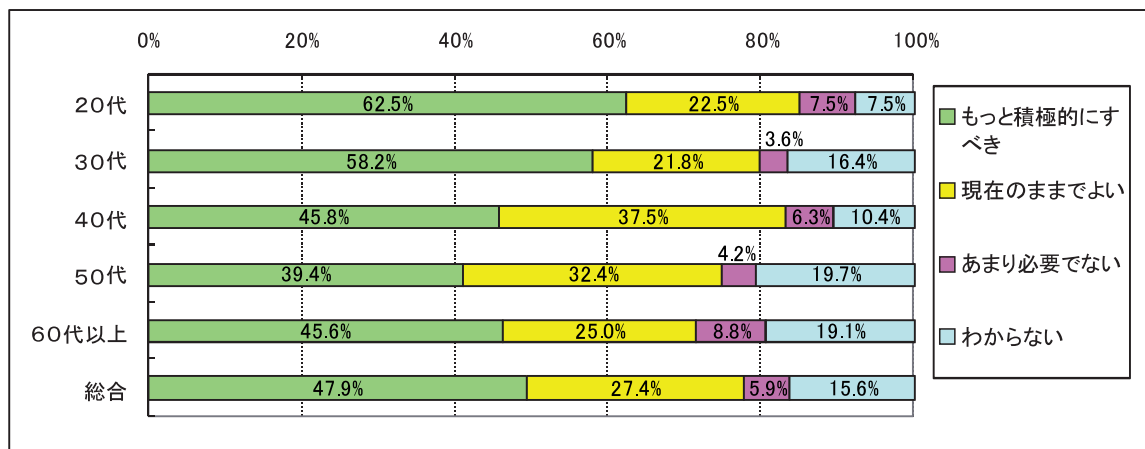
『国内の人権問題で、特に関心がある問題』について、回答を男女別に比較すると、上位3つの順番は男女ともに同じで、男性では「子どもをめぐる問題」(49.5%)、「高齢者をめぐる問題」(47.4%)、「障がい者をめぐる問題」(34.7%)となっている。一方、女性では「子どもをめぐる問題」(61.8%)、「高齢者をめぐる問題」(45.7%)、「障がい者をめぐる問題」(41.4%)となっている。県調査では、一番目に「障がい者をめぐる問題」(56.8%)、「高齢者をめぐる問題」(51.7%)、次に「女性をめぐる問題」(39.0%)と続いている。

問15 学校における人権教育をどのように考えますか。

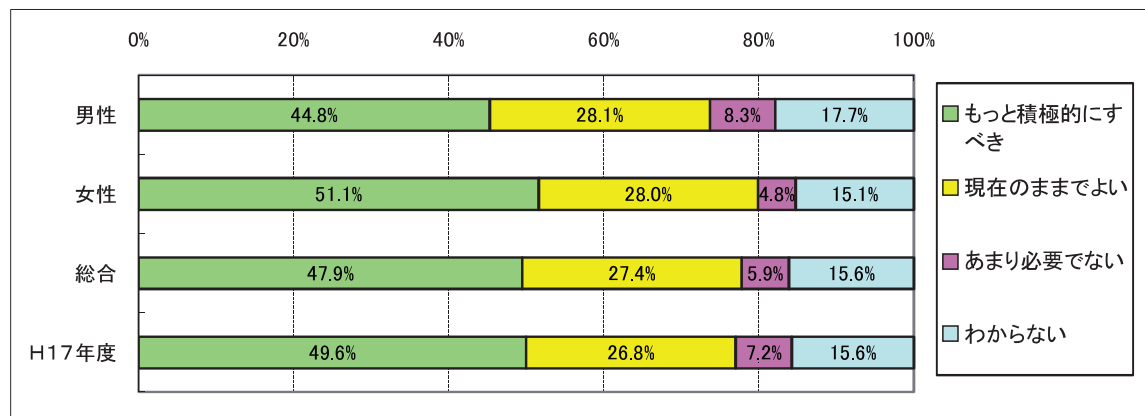
表15-1	もっと積極的にすべき	現在のままでよい	あまり必要でない	わからない
20代	62.5%	22.5%	7.5%	7.5%
30代	58.2%	21.8%	3.6%	16.4%
40代	45.8%	37.5%	6.3%	10.4%
50代	39.4%	32.4%	4.2%	19.7%
60代以上	45.6%	25.0%	8.8%	19.1%
総合	47.9%	27.4%	5.9%	15.6%

表15-2	もっと積極的にすべき	現在のままでよい	あまり必要でない	わからない
男性	44.8%	28.1%	8.3%	17.7%
女性	51.1%	28.0%	4.8%	15.1%
総合	47.9%	27.4%	5.9%	15.6%
平成17年度	49.6%	26.8%	7.2%	15.6%

(無回答3.1%)



(図15-1)



(図15-2)

『学校における人権教育をどのように考えますか』について、「もっと積極的にすべきだ」(47.9%)、「現在のままでよい」(27.4%)、「わからない」(15.6%)、「あまり必要でない」(5.9%)の順である。

年代別では、20代と30代の「もっと積極的にすべきだ」が過半数を超えている。「あまり必要でない」は、20代と60代に多いのが特徴である。

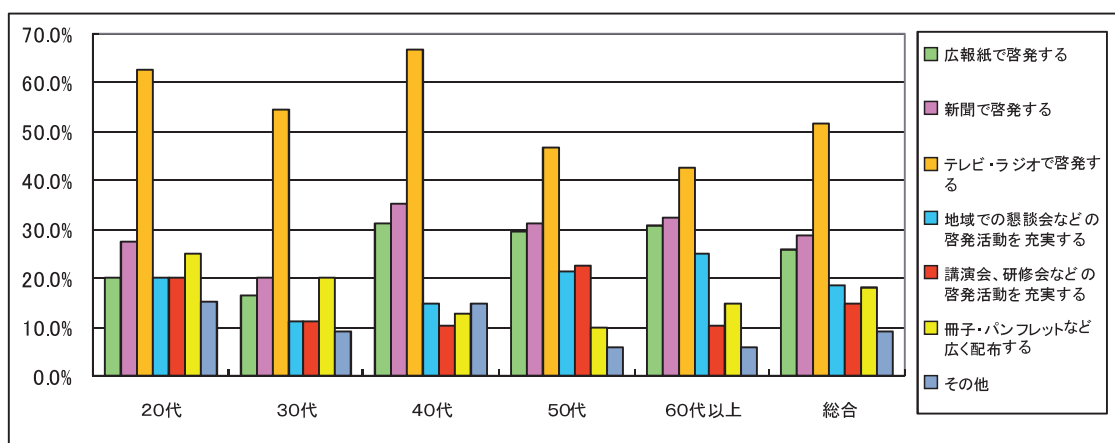
男女別の比較では、「もっと積極的にすべきだ」が女性のほうが男性より6.3%多い。女性の方が、学校教育での人権学習に必要性を感じていると考えられる。

前回調査との比較では、各項目とも同じ数値となっていて、大きな変化は見られない。

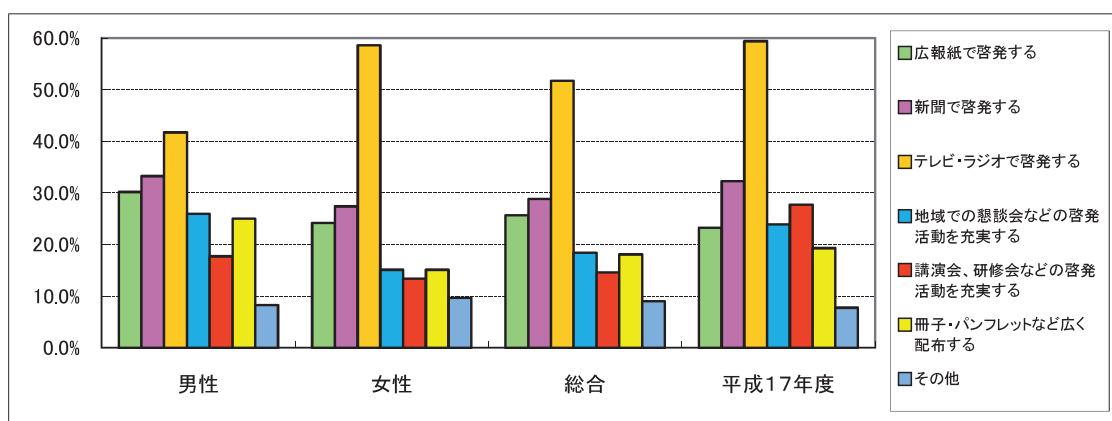
問16 人権問題に関する、より効果的な啓発活動はどのような方法がよいと思いますか。

表16	広報紙で啓発する	新聞で啓発する	テレビ・ラジオで啓発する	地域での懇談会などの啓発活動を充実する	講演会、研修会などの啓発活動を充実する	冊子・パンフレットなど広く配布する	その他
20代	20.0%	27.5%	62.5%	20.0%	20.0%	25.0%	15.0%
30代	16.4%	20.0%	54.5%	10.9%	10.9%	20.0%	9.1%
40代	31.3%	35.4%	66.7%	14.6%	10.4%	12.5%	14.6%
50代	29.6%	31.0%	46.5%	21.1%	22.5%	19.7%	5.6%
60代以上	30.9%	32.4%	42.6%	25.0%	10.3%	14.7%	5.9%
総合	25.7%	28.8%	51.7%	18.4%	14.6%	18.1%	9.0%
男性	30.2%	33.3%	41.7%	26.0%	17.7%	25.0%	8.3%
女性	24.2%	27.4%	58.6%	15.1%	13.4%	15.1%	9.7%
平成17年度	23.3%	32.3%	59.4%	23.9%	27.7%	19.3%	7.8%

(複数回答)



(図16-1)



(図16-2)

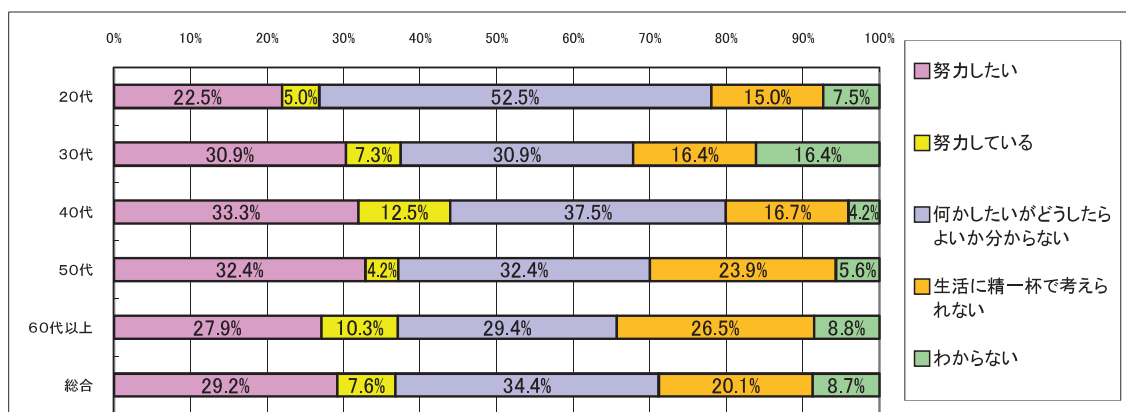
『人権問題に関する、より効果的な啓発活動はどのような方法がよいと思いますか』については、多い順に「テレビ・ラジオで啓発する」(51.7%)、「新聞で啓発する」(28.8%)、「広報紙で啓発する」(25.7%)の順である。

年代別では、20代から40代の若い世代ほど「テレビ・ラジオで啓発する」の割合が高い。前回調査と比べると、前回3番目だった「講演会・研修会などの啓発活動を充実する」が13.1%低くなり、「広報紙で啓発する」がわずかに増えている。

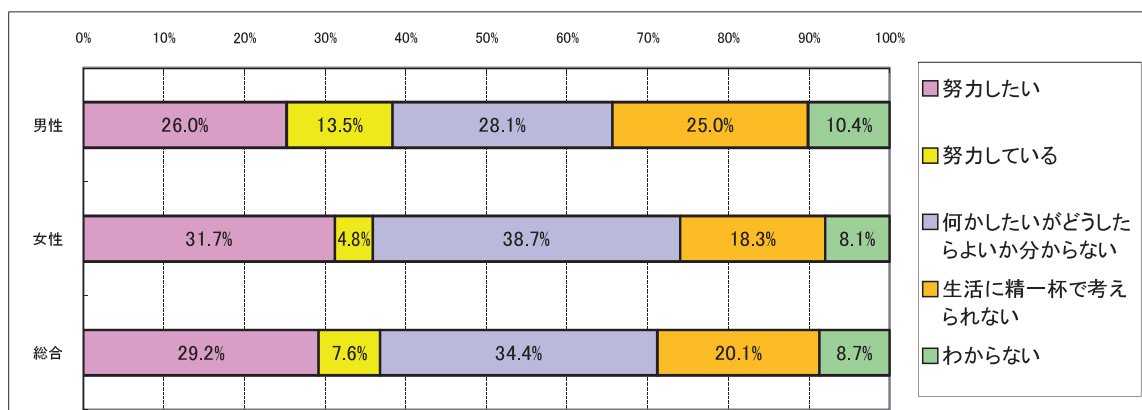
問17 あなたは、人権が守られる社会をつくるためにどうしたいですか。

表17-1	努力したい	努力している	何かしたいがどうしたらよいか分からない	生活に精一杯でそこまで考えられない	わからない
20代	22.5%	5.0%	52.5%	15.0%	7.5%
30代	30.9%	7.3%	30.9%	16.4%	16.4%
40代	33.3%	12.5%	37.5%	16.7%	4.2%
50代	32.4%	4.2%	32.4%	23.9%	5.6%
60代以上	27.9%	10.3%	29.4%	26.5%	8.8%
総合	29.2%	7.6%	34.4%	20.1%	8.7%

表17-2	努力したい	努力している	何かしたいがどうしたらよいか分からない	生活に精一杯でそこまで考えられない	わからない
男性	26.0%	13.5%	28.1%	25.0%	10.4%
女性	31.7%	4.8%	38.7%	18.3%	8.1%
総合	29.2%	7.6%	34.4%	20.1%	8.7%



(図17-1)



(図17-2)

『人権が守られる社会をつくるためにどうしたいですか』に対して、「何かしたいがどうしたらよいか分からない」(34.4%)、「努力したい」(29.2%)、「生活に精一杯でそこまで考えられない」(20.1%)、「わからない」(8.7%)となっている。

年代別比較では、20代の「何かしたいがどうしたらよいか分からない」が他の年代より多く、「生活に精一杯でそこまで考えられない」は、年代が上がるにつれて割合も増えている。

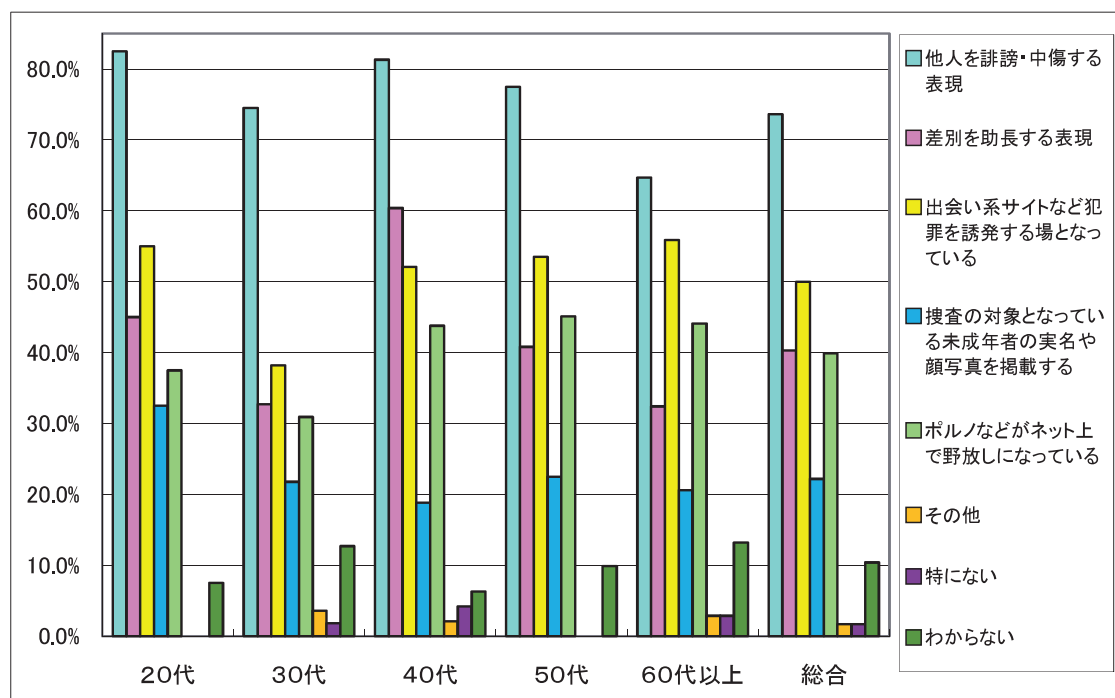
男女別比較では、男性で「努力している」「生活に精一杯でそこまで考えられない」が多くなって一方、女性は「努力したい」「何かしたいがどうしたらよいか分からない」が多い。



問18 インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか。(その1)

表18-1	他人を誹謗・中傷する表現	差別を助長する表現	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載する	ポルノなどがネット上で野放しになっている	その他	特にない	わからない
20代	82.5%	45.0%	55.0%	32.5%	37.5%	0.0%	0.0%	7.5%
30代	74.5%	32.7%	38.2%	21.8%	30.9%	3.6%	1.8%	12.7%
40代	81.3%	60.4%	52.1%	18.8%	43.8%	2.1%	4.2%	6.3%
50代	77.5%	40.8%	53.5%	22.5%	45.1%	0.0%	0.0%	9.9%
60代以上	64.7%	32.4%	55.9%	20.6%	44.1%	2.9%	2.9%	13.2%
総合	73.6%	40.3%	50.0%	22.2%	39.9%	1.7%	1.7%	10.4%

(複数回答)



(図18-1)

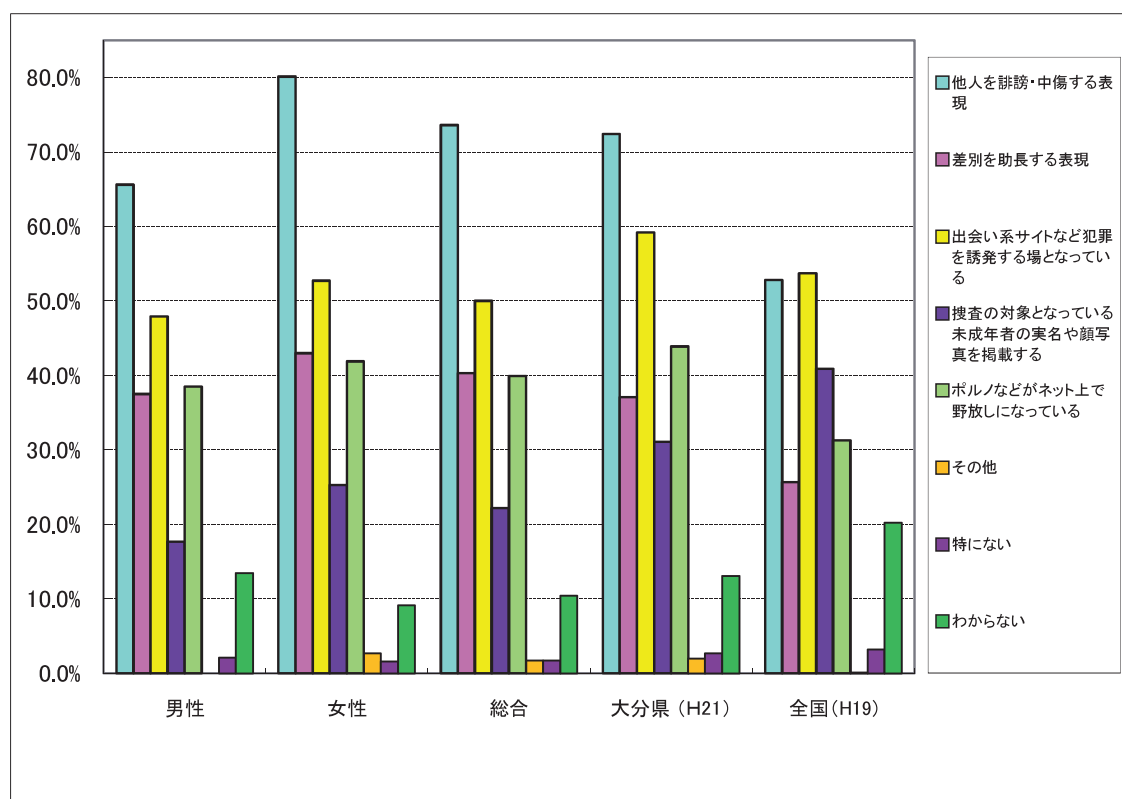
『インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか』については、「他人を誹謗（ひぼう）・中傷する表現」（73.6%）、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」（50.0%）、「差別を助長する表現」（40.3%）、「ポルノなどがネット上で野放しになっている」（39.9%）の順になっている。

年代別比較では、各年代を通して「他人を誹謗・中傷する表現」が多い。特に、20代と40代は、8割を超えている。「ポルノなどがネット上で野放しになっている」は、40代以上の年代で4割を超えている。

問18 インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか。(その2)

表18-2	他人を誹 謗・中傷 する表現	差別を助 長する表 現	出会い系 サイトな ど犯罪を 誘発する 場となっ ている	捜査の対象 となってい る未成年者 の実名や顔 写真を掲載 する	ポルノな どがネッ ト上で野 放しにな っている	その他	特にな い	わから ない
男性	65.6%	37.5%	47.9%	17.7%	38.5%	0.0%	2.1%	13.5%
女性	80.1%	43.0%	52.7%	25.3%	41.9%	2.7%	1.6%	9.1%
総合	73.6%	40.3%	50.0%	22.2%	39.9%	1.7%	1.7%	10.4%
大分県 (H21)	72.4%	37.1%	59.2%	31.1%	43.9%	2.0%	2.7%	13.1%
全国 (H19)	52.8%	25.7%	53.7%	40.9%	31.3%	0.1%	3.2%	20.2%

(複数回答)



(図18-2)

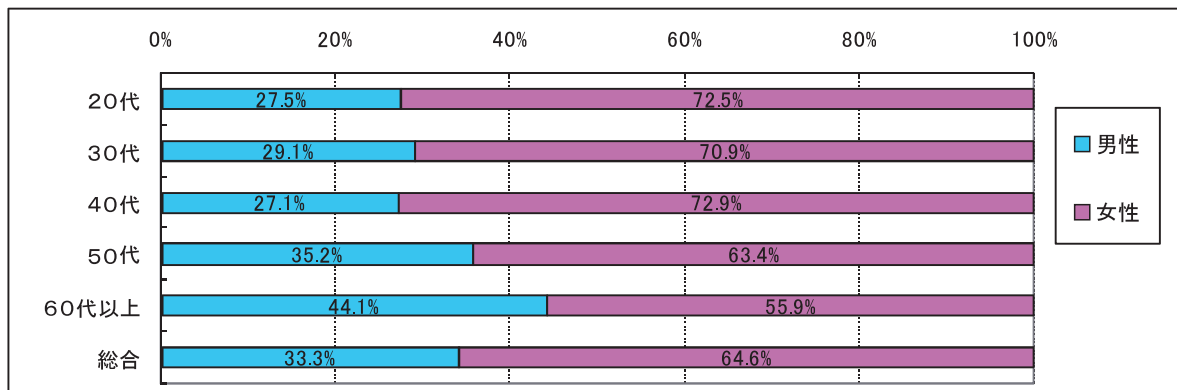
『インターネットに関して、人権上問題があると思われるものは何ですか』についての性別比較では、女性はすべての内容で男性より高い割合を示している。特に、「他人を誹謗・中傷する表現」と「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載する」が多い。

この設問については、インターネットに関する人権問題が多いことから、今回の市民意識調査に初めて加えたので、前回調査との比較はできないが、県調査と比べると、「他人を誹謗・中傷する表現」、「差別を助長する表現」では、わずかに市の方が多く、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載する」は少なくなっている。

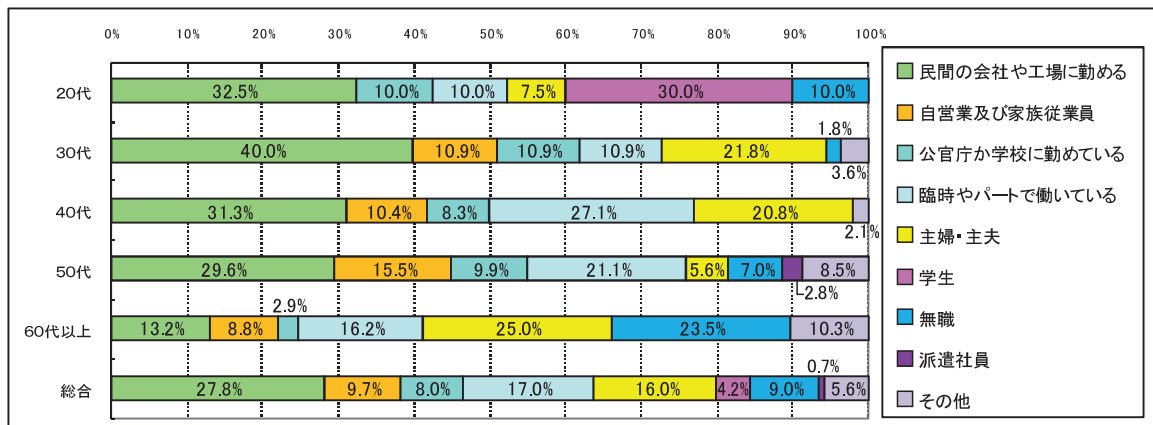
問19 あなた自身についておたずねします。

表19-1	男性	女性
20代	27.5%	72.5%
30代	29.1%	70.9%
40代	27.1%	72.9%
50代	35.2%	63.4%
60代以上	44.1%	55.9%
総合	33.3%	64.6%

表19-2	民間の会社や工場に勤める	自営業（農業・林業・漁業を含む）及び家族従業員	公 官 庁（国、県、市町村の機関）か学校に勤めている	臨時やパートで働いている	主婦・主夫	学生	無職	派遣社員	その他
20代	32.5%	0.0%	10.0%	10.0%	7.5%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%
30代	40.0%	10.9%	10.9%	10.9%	21.8%	0.0%	1.8%	0.0%	3.6%
40代	31.3%	10.4%	8.3%	27.1%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
50代	29.6%	15.5%	9.9%	21.1%	5.6%	0.0%	7.0%	2.8%	8.5%
60代以上	13.2%	8.8%	2.9%	16.2%	25.0%	0.0%	23.5%	0.0%	10.3%
総合	27.8%	9.7%	8.0%	17.0%	16.0%	4.2%	9.0%	0.7%	5.6%



(図19-1)



(図19-2)

『あなた自身についておたずねします』で、回答者の状況をたずねた。調査票は、各年代別で男女同数に発送したが、回答者は男性が33.3%、女性が64.6%で、女性が31.3%多い。特に男女差は、40代では45.8%、20代で45.0%と大きい。前回調査と比較すると差は小さくなっている。

職業については、「民間企業勤務者」(27.8%)、「臨時やパート」(17.0%)、「主婦・主夫」(16.0%)、「自営業」(9.7%)、「無職」(9.0%)の順であった。20代は、学生が多く、30代から50代で民間企業勤務者が多い。60代以上は無職が多くなっている。

### Ⅲ 意識調査結果と人権教育・啓発について

#### 市民の人権意識について

別府市民の人権意識について、「大変高まっていると思う」と「少し高まっていると思う」を合わせると34.7%で、平成17年度調査より8.7%増加している。また、「かわらない」が49.7%で前回調査より3.3%増加し、「悪くなった」は0.3%で前回調査より0.6%減少している。

これまでの人権啓発活動の取り組みが徐々に浸透し、市民の人権意識は高まってきていると言えるようであるが、社会変化の中で地域の間人関係も希薄化が進み、いじめの問題や児童虐待、高齢者虐待等が多発している。また、新たな人権侵害としてインターネットやブログを利用した誹謗中傷などの被害も年々増加している。市民一人ひとりの人権尊重の意識をさらに育て、同和問題の解決をはじめ、お互いの人権が守られたくらしやすい社会をめざす人権啓発の取り組みが必要である。

#### 人権侵害に関する意識について

自分の人権が侵害されたと思ったことのある別府市民は31.3%で、前回調査より4.1%減少している。また、平成21年の大分県調査(31.0%)とほぼ同じ割合であった。しかし、平成19年の全国調査(16.3%)と比較すると、15.0%も高い割合となっている。

人権が侵害された内容については、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が57.8%、「名誉・信用の毀損、侮辱」が36.7%、「差別待遇」が33.3%と前回と同じ順序であった。「暴力や強要、強制」(7.8%)以外は、前回調査よりも割合が増えており、一般的に人権侵害が広がっていると言えるようである。また、20代の「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」、「公害による生活妨害」、「プライバシーの侵害」、「なんとなく差別されている」の割合が、年代別の最多をしめている。これは、若者が人権侵害に対して敏感になっているからではないかと考えられる。

無意識に発言した言葉や軽い気持ちでの噂話が相手を深く傷つけたり、人権侵害の不快感を与えたりする。自分の人権を主張するだけでなく、相手の気持ちを考えた発言や行動が取れる他者への人権意識や人権感覚をさらに高め、市民がくらしやすい地域社会づくりが実現できるような啓発活動を続ける必要がある。

#### 風習について

日本の風習に関する別府市民の考えは、「風習に従うのは、当然のことと思う」が24.3%で、前回調査(24.8%)とほぼ同じ割合であった。しかし「間違っていると思う」は6.9%で、前回調査(10.1%)より3.2%、前々回調査(37.2%)より30.3%減少している。10年前の市民意識調査より、「間違っていると思う」の割合が大きく減少していることは、大きな課題であると言える。

結婚式は大安に、葬儀は友引を避けるといった風習の中には、「まわりがしているから従っている」という考え方が大半であると思われる。科学的根拠のない風習に従うことが、偏見や差別を生むことにもつながっている。偏見や差別を受け苦しむ人が出ないように、風習に関する人権啓発を積極的に進めていかなければならない。

### 女性をめぐる問題に関する人権啓発について

女性に関する人権上の問題として、別府市民は「男女の固定的な役割分担意識（男性は仕事、女性は家庭など）をおしつける」（54.5%）、「家庭における夫から妻に対する暴力（酒に酔って殴るなど）」（49.0%）、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（47.9%）、「職場における男女の給与等の差別待遇」（46.2%）をあげている。いずれも、前回調査、平成19年の全国調査、平成21年の大分県調査と比較すると、高い割合となっている。

別府市では平成18年3月に、「別府市男女共同参画推進条例」を公布・施行し、男女平等の理念に基づいたまちづくりを進めている。

今後の啓発では、学校を中心として、地域、家庭で固定的な性別役割分担意識の解消や就労待遇の改善、セクシュアル・ハラスメントの防止を含め、男女共同参画社会の実現をめざし、男女がお互いの人権を尊重し合えるよう意識を更に高めることが必要と考える。

また、同時に、女性に対する暴力の防止に対しては、関係機関や関係団体との連携の強化を図り、相談支援体制の充実や情報提供を進めることが必要と考える。

### 高齢者をめぐる問題に関する人権啓発について

別府市も高齢化が年ごとに進んでおり、人口12万人に対して3.4万人、65歳以上の高齢化率にして28.2%と超高齢化社会（平成22年3月）になっている。5年前の21%と比べると、急激な変化として市民は不安を感じている。そのような中で、主な不安は介護の支援や虐待（30.1%）はさることながら、経済的不安を63.5%の方が抱いている。また、60代の高齢者はまだ働けるし、働きたいと考えている市民の方がいることが明らかになった。悪徳業者による詐欺事件に巻き込まれる心配を挙げている方が今なお多い。

今後の啓発活動の中で、高齢者をめぐる認知症やそれに伴う介護や看護のあり方等について、市民への理解を深めていくとともに、高齢者も社会の重要な一員として、家庭や地域でしっかりと支えていく体制づくりを考え、「別府に住んでいてよかった。」「ここでは安心して歳がとれる。」など、このようなまちで生きがいをもって暮らせる地域づくりを働きかけていくことが望まれる。また、介護制度等の充実も不可欠であり、自治体の主体性をもって、高齢者の施設職員等への人権啓発等も定期的に進めていくことが大切である。

### 子どもをめぐる問題に関する人権啓発について

子どもをめぐる問題では、「仲間はずしや無視、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなど、いじめを行う」（73.3%）、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」（66.7%）という項目の数値が高い。「いじめ」は子どもをめぐる重要な問題であり、解消に向けて、地域・学校・家庭それぞれの役割分担と協働によって、子どもの人権が尊重される環境づくりが求められる。

「家庭での虐待」（64.2%）が高い数値を示した背景には、「児童虐待防止法」第6条及び第9条において、子どもの安全のためには親権の制限や家庭への立入調査などとともに、通告の義務も加わったこともあり、社会問題として認知されてきたと考えられる。児童の虐待防止には、子どもも保護者も安心して生活し相談できるような関係各機関の情報提供や連携が求められる。

子どもをめぐる問題に関しての解決に向けては、別府市民一人ひとりが認識を高め差別

や偏見のない社会の実現をめざし、各学校を中心として地域・家庭と連携し、行政も一体となつての教育・啓発を充実させなければならないと考える。

### 障がい者をめぐる問題に関する人権啓発について

障がい者をめぐる問題について、別府市民は、どの年代も「障がい者に対する理解が不足している」と回答しており、全体で56.3%を占める。さらに人権上の問題としては、就職や職場で不利な扱いを受けたり、差別的な言動をされたり、アパートや住宅の入居が困難になることがあると市民は考えている。しかし、「じろじろ見られたり、避けられたりする」、「結婚問題で周囲が反対する」などのほとんどの項目で割合が下がっているのは、当事者による自立支援組織の活動の拡大とともに、バリアフリーの考え方が少しずつ浸透しているものと考えられる。

「すべて障害者は、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられる」と障害者基本法第3条第2項に規定されている。障がい者が社会参加する場合に不利益が生じないよう、行政関係者を含め市民に対し、人権啓発として「障がい者についての正しい理解」の促進に力を入れなければならないと考える。就職や職場でも不利な扱いを受けず、経済的にも自立でき、障がい者が生きがいを持って生活できる共生社会づくりが望まれる。

### 同和問題についての人権啓発について

別府市民は、「同和問題を知っていますか」という問に対して、80.9%が「知っている」、18.8%が「知らない」と答えている。また、同和問題を知ったきっかけについては、20代、30代、40代とも「学校の授業で教わった」が約7割を占め、同和教育の効果が伺われる。しかし、20代の約半数が、「同和問題は知らない」と答えているのは、同和問題が自分のこととして受けとめられていない状況があると考えられる。学校では授業の中で基本的人権について教えているが、今後とも、正しい知識が与えられ不合理な差別が解消されるよう、「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年3月15日・閣議決定）をもとに、人権教育の充実を促したい。

「同和問題でどのような人権問題が起きていると思いますか」について、「結婚問題で周囲が反対すること」が46.9%で一番多く、「身元調査をすること」が36.1%と続く。どちらも前回調査より10%ほど減っているが、やはり多いと考える。結婚問題については、同和地区出身者の問題ではなく、地区外の結婚相手やその家族や親戚、知人等、私たち一人ひとりの問題となる。同和問題を他人事として捉えるのではなく、市民一人ひとりの問題として捉えたうえで、部落差別の早期解消をめざした人権啓発が大切と考える。また、社会教育では、公民館等で行われる講座や各種研修会での同和問題に関する市民への啓発活動が必要と考える。

### ハンセン病に関する人権啓発について

平成15年11月、ハンセン病回復者への宿泊拒否事件が起き、別府市もこのことをきっかけに、平成18年まで数回にわたって「人権コンサート」やパネル展を開催してきた。その効果が別府市民への意識を高くしたことは明らかである。ところが5年が経過し、ハンセン病に対する意識も薄れてきている。また、ハンセン病回復者への接遇等について、「何か支援したい」意識も21.3%から16.3%に下がっているのも懸念される。

このようなことを踏まえ、今後とも啓発活動の中でハンセン病に関する「無らい県運動」を中心に歴史が刻まれてきた悲惨な事実を盛り込みながら、ハンセン病回復者に対する差別や偏見を取り除いていくことが大切である。

特に、国際観光温泉文化都市別府では、観光客をはじめすべての訪問者を温かく迎えようとする市民意識が培われることが望まれる。

### 国内の人権問題について

国内の人権問題で別府市民の関心が高いものは、「子どもをめぐる問題」（56.9%）、「高齢者をめぐる問題」（46.2%）、「障がい者をめぐる問題」（38.9%）、「女性をめぐる問題」（31.6%）である。

「子どもをめぐる問題」は、20代、30代、40代が高く、女性の関心が男性よりも高い。これは、子育てをしている女性の関心度が高いためだと思われる。「高齢者をめぐる問題」は、20代と60代以上の世代の関心が高い。「女性をめぐる問題」は、世代が若いほど関心が高く、女性のほうが男性よりも高い。以上のことは、自分自身の身近な人権問題に関心が高いことを示している。

また、大分県の調査と比較すると、「同和問題」、「アイヌ民族をめぐる問題」、「HIVをめぐる問題」、「犯罪者やその家族をめぐる問題」の関心度は低い。

あらゆる差別を解消するためには、同和問題を中心とした人権8課題について、市民一人ひとりが正しい知識を持ち、行動できるための啓発活動が必要である。

### 学校における人権教育について

「もっと積極的にすべき」（47.9%）という数値から、自分を大切にし、他人を大切にできる心や態度、行動力を育むという視点で取り組まれている人権教育は、今後ますます積極的に進められることが期待されている。しかしながら、「現在のままでよい」（27.4%）、「あまり必要でない」（5.9%）という項目の数値を考えたとき、これからの進め方等については、改善や工夫をしていくことが大切なのではないだろうか。その際、文部科学省の「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」より平成20年3月に出された「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」を十分活用することが、学校における人権教育の推進に役立つものであると考えられる。

さらに、身近な日常における疑問等を大事にしながら、受身の学習だけではなく、児童生徒自らが主体的に学び行動できるような学校における人権教育の取り組みが期待される。

学校における人権教育の充実に向けて、学校として組織的計画的な取り組み、教職員の研修や家庭、地域、関係各機関との連携等を充実させなければならないと考える。

### 効果的な啓発について

この調査での啓発に関する設問では、「差別をなくす運動月間（8月）」及び「人権週間（12月）」の活動を知らない（69.8%）、ハンセン病に関するパネル展の実施を知らない（85.8%）とする回答である。前回の調査から今回の調査まで5年間継続して同様な活動を実施してきたが、いずれも「知らない」という回答が増加している。

啓発活動の方法について、「テレビ・ラジオで啓発する」（51.7%）、「新聞で広報する」（28.8%）、「広報紙で啓発する」（25.7%）の順に効果があるとの回答である。

前回調査からの広報活動は、市報、チラシ等を中心に展開しているが、今回の調査結果

から市民への「差別をなくす運動月間」、「人権週間」に対する周知の割合が低下しており、広報効果が表れていない状況にある。

今後の啓発は、人権意識を高めるための広報活動の充実を図る必要がある。具体的には、この調査結果をもとに、ケーブルテレビ、市ホームページ等の媒体を利用し、より多くの市民に発信していきたい。併せて、市報、チラシ等での啓発を継続するとともに、企業、自治会その他の団体や個人に対し、公民館その他の施設を利用しての研修会の開催等、地域と密着した人権研修の活動を強化していきたいと考える。

### インターネットに関する人権問題について

インターネットに関する人権問題については、73.6%の別府市民が、インターネット上での「他人を誹謗・中傷する表現」が問題と考えていることがわかった。この数値は、全国(52.8%)及び大分県(72.4%)の調査結果と比べても高い結果となっている。また、「差別を助長する表現」(40.3%)、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」(50.0%)、「ポルノなどがネット上で野放しになっている」(39.9%)の数値も、全国及び大分県の調査結果と同様に高い割合を示している。

1990年代後半から爆発的に広がったインターネットの利用をめぐっては、匿名で書き込みが行われることによる差別や名誉毀損等が深刻な問題となっている。

このような新しい人権問題について、学校や職場での情報教育や啓発活動を推進していく必要がある。

### 回答者について

今回の市民意識調査は、前回と同様に年代別、かつ、男女各500名の合計1,000名を対象に実施しており、その回答は男性が96名(19.2%)、女性が186名(37.2%)となっており、男性の回答率は女性の5割程度にとどまっている。また年代別では、20代40名(20.0%)、30代55名(27.5%)、40代48名(24.0%)、50代71名(35.5%)、60代以上68名(34.0%)となっている。

この結果から、調査に対する男性の関心度が女性に比べて低い傾向にあることがわかる。別府市は、男女共同参画社会の実現をめざしており、男性にも人権問題に関心を持ち、男性の意見が反映されるよう、調査への協力や人権問題に関する各講座や人権研修会に出席できるような働きかけや条件整備が必要と考える。

年代別では、結果に示されるように、50代、60代以上の回答率が高く、20代の回答率が低くなっている。今後は、20代を中心とした若い年代への働きかけを強化していく必要があると考える。



# 付 表

集計表（年代別・男女別）

集計表（職業別）

アンケート（質問）用紙



平成22年度 市民意識調査 集計表(年代別・男女別1)

	問1			問2			問3			問4			問5			問6			問7			問8					
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
20代	80.0%	30.0%	47.5%	12.5%	32.5%	67.5%	32.5%	70.0%	38.5%	46.2%	7.7%	23.1%	30.8%	30.8%	0.0%	15.0%	57.5%	10.0%	67.5%	24.2%	20.1%	21.5%	5.0%	12.5%			
30代	44.4%	30.0%	18.2%	16.4%	9.1%	74.5%	29.1%	70.9%	25.0%	18.8%	37.5%	12.5%	6.3%	18.8%	12.5%	0.0%	27.3%	45.5%	63.6%	41.8%	50.9%	30.9%	20.0%	18.2%			
40代	34.4%	4.0%	28.0%	0.0%	6.5%	33.3%	5.5%	5.5%	5.5%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	8.2%	2.8%	2.8%	26.2%	25.2%	17.9%	10.6%	6.8%	1.2%			
50代	45.2%	20.8%	35.2%	12.5%	18.8%	68.3%	31.3%	68.8%	33.3%	6.7%	13.3%	6.7%	33.3%	13.3%	0.0%	16.7%	56.3%	4.2%	80.4%	56.3%	35.4%	18.8%	20.8%	16.7%			
60代以上	62.4%	2.8%	35.2%	8.5%	16.9%	74.6%	28.2%	71.8%	55.0%	20.0%	45.0%	10.0%	30.0%	20.0%	0.0%	5.6%	50.7%	4.2%	45.1%	43.7%	40.8%	25.4%	26.8%	15.5%			
年代不明	41.8%	11.8%	30.9%	39.7%	0.0%	17.6%	2.9%	10.3%	86.5%	33.8%	66.2%	0.0%	0.0%	17.4%	26.1%	32.4%	48.5%	7.4%	38.2%	41.2%	45.8%	34.1%	38.2%	19.1%			
総計	20.1%	20.8%	14.3%	4.4%	28.3%	22.4%	9.0%	19.8%	52.3%	30.7%	10.2%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%	54.5%	46.2%			
男性	65.7%	29.4%	16.1%	13.1%	15.6%	68.2%	10.1%	20.1%	4.3%	2.0%	4.3%	5.1%	3.0%	4.5%	1.0%	30.4%	42.1%	12.6%	48.4%	51.4%	40.2%	22.1%	16.8%	0.7%			
女性	132.4%	13.4%	96.1%	27.1%	15.0%	150.6%	40.2%	120.4%	16.2%	25.5%	10.7%	11.7%	38.1%	103.8%	27.0%	103.8%	87.8%	8.2%	106.8%	87.8%	60.4%	43.3%	38.2%	4.1%			
性別不明	2.4%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
総計	87.2%	20.1%	80.1%	44.2%	28.3%	22.4%	9.0%	19.8%	52.3%	30.7%	10.2%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%	54.5%	46.2%			
重複回答	30.2%	69.8%	6.9%	27.8%	49.7%	0.3%	15.3%	9.7%	12.5%	77.8%	31.3%	68.8%	57.8%	36.7%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%	24.3%	51.4%	6.9%			
無回答	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%
複数回答	54.3%	30.3%	33.3%	44.2%	28.3%	22.4%	9.0%	19.8%	52.3%	30.7%	10.2%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.9%	10.0%	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%	54.5%	46.2%			

	問9			問10			問11		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
20代	47.5%	40.0%	70.0%	27.5%	60.0%	40.0%	47.5%	45.0%	40.0%
30代	10.4%	33.3%	12.4%	2.3%	43.3%	10.4%	3.3%	41.1%	21.2%
40代	19.1%	27.1%	0.0%	4.0%	39.1%	11.3%	3.7%	38.6%	11.3%
50代	22.0%	46.2%	2.0%	4.5%	47.1%	15.5%	6.3%	43.7%	35.2%
60代以上	19.2%	36.1%	6.3%	5.1%	47.1%	16.2%	7.5%	45.6%	32.4%
年代不明	2.2%	3.2%	0.0%	1.4%	3.3%	2.1%	1.0%	3.3%	2.1%
総計	91.9%	173.6%	12.5%	211.9%	59.8%	185.8%	126.1%	108.3%	6.4%
男性	36.5%	57.2%	21.4%	69.4%	18.5%	32.4%	43.3%	34.3%	3.6%
女性	53.6%	113.4%	45.8%	141.2%	41.2%	127.5%	80.7%	72.6%	3.2%
性別不明	2.2%	3.2%	0.0%	1.4%	3.3%	2.1%	1.0%	3.3%	2.1%
総計	91.9%	173.6%	12.5%	211.9%	59.8%	185.8%	126.1%	108.3%	6.4%
重複回答	31.6%	34.4%	60.1%	25.6%	4.2%	1.7%	2.4%	73.3%	66.7%
無回答	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%	16.1%	5.6%	6.9%
複数回答	54.3%	30.3%	33.3%	44.2%	28.3%	22.4%	9.0%	19.8%	52.3%

平成22年度 市民意識調査 集計表(年代別・男女別2)

	問12										問13										問14										問15																												
	①					②					①					②					①					②					①					②																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
20代	16	17	11	7	18	10	1	0	13	3	37	7	20	2	12	1	20	2	12	1	15	21	25	21	6	2	8	2	4	6	5	10	10	11	12	13	14	15	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	4					
30代	40.0%	42.5%	27.5%	17.5%	45.0%	25.0%	2.5%	0.0%	32.5%	7.5%	92.5%	17.5%	50.0%	5.0%	30.0%	2.5%	37.5%	52.5%	62.5%	17.5%	5.0%	20.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	15.0%	12.5%	40.0%	17.5%	40.0%	17.5%	40.0%	17.5%	2.5%	2.5%	62.5%	22.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%										
40代	56.2%	27.3%	29.1%	9.1%	34.5%	9.1%	3.6%	23.6%	2.2%	2	3	52	6	26	3	17	0	22	20	34	24	11	4	6	3	3	10	11	4	15	5	0	1	32	12	2	9	0	1	32	2	2	2	2	3.6%	16.4%	16.4%	16.4%	16.4%										
50代	50.0%	22.9%	31.3%	14.6%	35.4%	16.7%	2.1%	6.3%	22.9%	1	3	11	3	43	11	26	0	19	20	34	10	6	3	5	5	8	10	8	17	3	1	0	22	18	3	5	5	5	5	0.0%	10.4%	10.4%	10.4%	10.4%															
60代以上	54.9%	28.2%	16.9%	5.6%	38.0%	9.9%	1.4%	7.0%	15.5%	11	8	55	11	37	5	15	1	19	33	36	32	10	1	12	6	4	11	16	12	10	7	0	1	28	23	3	14	0	1	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%															
年代不明	35.3%	19.1%	20.6%	7.4%	30.9%	10.3%	2.9%	11.8%	26.5%	14.7%	80.9%	16.2%	60.3%	7.4%	20.8%	0.0%	23.5%	52.9%	48.5%	33.9%	26.5%	5.8%	11.8%	13.2%	14.7%	16.2%	19.1%	11.8%	14.7%	4.4%	0.0%	1.5%	45.6%	25.0%	8.8%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%																				
総合	46.9%	26.7%	24.0%	10.1%	36.1%	13.2%	2.4%	6.3%	23.6%	9.4%	85.5%	16.3%	52.8%	5.6%	24.3%	1.0%	31.6%	46.2%	56.9%	38.9%	18.4%	4.9%	13.9%	8.7%	10.1%	16.7%	19.4%	13.5%	22.6%	8.7%	0.7%	1.4%	47.9%	27.4%	5.9%	15.6%	15.6%	15.6%	15.6%																				
男性	49	30	23	15	31	16	3	10	18	11	80	12	44	12	24	1	17	45	47	33	23	6	9	9	13	20	18	10	19	5	0	1	43	27	8	17	8	17	8	17.7%	17.7%	17.7%	17.7%	17.7%															
女性	86	46	45	13	71	21	4	8	48	16	162	34	106	3	44	2	74	85	115	77	29	8	30	16	16	26	37	29	46	20	2	3	95	52	9	28	9	28	9	28.0%	28.0%	28.0%	28.0%	28.0%															
性別不明	0	1	1	1	2	1	0	2	0	5	1	2	1	2	1	2	0	3	2	2	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%															
総合	135	77	69	29	104	38	7	18	68	27	247	47	152	16	70	3	91	133	164	112	53	14	40	25	29	48	56	39	65	25	2	4	138	79	17	45	45	45	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%	46.9%																
無回答	4.4%	4.9%	4.4%	1.4%	4.9%	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%															

	問16										問17										問18										問19																		
	①					②					①					②					①					②					①					②													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
20代	8	11	25	8	10	6	9	2	21	6	3	33	18	22	13	15	0	3	11	29	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30代	20.0%	27.5%	20.0%	20.0%	15.0%	22.5%	5.0%	2.5%	52.5%	15.0%	7.5%	82.5%	45.0%	55.0%	32.5%	37.5%	0.0%	0.0%	7.5%	27.5%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
40代	16.4%	20.0%	54.5%	10.9%	10.9%	20.0%	9.1%	30.9%	16.4%	7.3%	30.9%	16.4%	74.5%	32.7%	38.2%	21.8%	30.9%	3.6%	1.8%	29.1%	70.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
50代	31.3%	35.4%	66.7%	14.6%	10.4%	12.5%	14.6%	33.3%	12.5%	16.7%	4.2%	81.3%	60.4%	52.1%	18.8%	43.8%	2.1%	4.2%	6.3%	27.1%	72.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
60代以上	29.6%	31.0%	46.5%	21.1%	22.5%	19.7%	5.6%	32.4%	23.9%	5.6%	32.4%	23.9%	77.5%	40.8%	53.5%	22.5%	45.1%	0.0%	9.9%	35.2%	63.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
年代不明	30.9%	32.4%	42.6%	25.0%	10.3%	14.7%	5.9%	27.9%	10.3%	14.7%	5.9%	64.7%	32.4%	55.9%	20.8%	44.1%	2.9%	2.9%	13.2%	44.1%	55.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
総合	74	83	149	53	42	52	26	84	22	99	58	25	212	116	144	64	115	5	30	96	186	40	55	48	71	68	80	28	23	49	46	12	26	2	16	2	16	2	25.7%	25.7%	25.7%	25.7%	25.7%						
男性	29	32	40	25	17	24	8	25	13	27	24	10	63	36	46	17	37	0	2	13	96	0	11	16	13	25	30	33	13	17	5	1	5	12	0	9	0	9	0	30.2%	30.2%	30.2%	30.2%	30.2%					
女性	45	51	109	28	25	28	18	59	9	72	34	15	149	80	98	47	78	5	3	17	0	186	29	39	35	45	38	47	14	6	44	45	7	14	2	7	0	7	0	24.2%	24.2%	24.2%	24.2%	24.2%					
性別不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					
総合	74	83	149	53	42	52	26	84	22	99	58	25	212	116	144	64	115	5	30	96	186	40	55	48	71	68	80	28	23	49	46	12	26	2	16	2	16	2	25.7%	25.7%	25.7%	25.7%	25.7%						
無回答	4.4%	4.9%	4.4%	1.4%	4.9%	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%					

平成22年度 市民意識調査 集計表(職業別1)

	問1					問2					問3					問4					問5					問6					問7					問8								
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
民間	23.0%	75.0%	2.8%	23.8%	56.8%	0.0%	15.0%	0.0%	12.5%	78.8%	32.5%	67.5%	19.2%	46.2%	19.2%	34.6%	7.7%	11.5%	7.7%	3.8%	28.3%	56.3%	6.3%	7.5%	65.0%	50.0%	55.0%	52.5%	30.0%	23.8%	20.0%	16.3%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%	86.8%	52.5%	37.5%	28.8%				
自営	6.22	2	9	15	6	0	2	1	2	25	2	2	3	2	0	0	0	0	0	0	28.6%	60.7%	0.0%	3.8%	50.0%	42.9%	46.4%	25.0%	25.0%	7.1%	7.1%	3.8%	7.1%	0.0%	64.3%	57.1%	25.0%	32.1%						
官公庁・学校	11	12	5	8	0	2	11	3	9	7	16	4	5	0	2	1	0	0	3	1	3	9	6	3	12	12	14	14	9	5	4	5	0	0	1	12	9	5	7					
臨時・パート	17	32	21	7	16	23	0	6	1	8	40	17	32	11	6	3	5	4	0	24.4%	43.3%	14.3%	0.0%	28.6%	57.1%	71.4%	29.4%	14.3%	21.7%	17.4%	21.7%	0.0%	0.0%	4.3%	52.2%	39.1%	21.7%	30.4%						
主婦・主夫	13	33	5	13	19	0	9	3	6	37	12	34	6	4	4	3	0	1	6	1	2	11	24	2	6	23	17	20	22	14	10	6	3	4	1	3	2	28	17	12	7			
学生	28.3%	71.7%	10.8%	28.3%	41.3%	0.0%	19.6%	6.5%	13.0%	80.4%	26.1%	73.9%	50.0%	33.3%	25.0%	0.0%	8.3%	50.0%	8.3%	16.7%	23.9%	52.2%	4.3%	13.0%	50.0%	37.0%	43.5%	47.8%	30.4%	21.7%	13.0%	6.5%	8.7%	2.2%	6.5%	4.3%	80.9%	37.0%	26.1%	15.2%				
無職	9	17	2	6	10	1	7	2	3	21	8	18	5	1	2	4	0	0	3	2	8	12	2	2	12	13	13	14	12	11	8	4	0	1	1	11	10	10	7					
派遣社員	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1				
その他	6	10	0	4	9	0	3	2	4	10	5	11	4	4	1	1	0	0	0	0	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%				
不明	2	4	0	2	3	0	1	0	0	6	3	3	2	0	2	0	0	1	1	2	3	3	0	1	2	3	0	1	0	1	0	1	0	3	1	0	1	4	3	1				
総合	87	201	20	80	143	1	44	28	36	224	90	198	52	33	20	30	7	10	22	17	9	70	148	20	34	157	133	141	138	100	66	60	45	35	5	18	8	183	132	96	82			
	30.2%	69.8%	6.9%	27.8%	49.7%	0.3%	15.3%	9.7%	12.5%	77.8%	31.3%	68.8%	57.8%	38.7%	22.2%	33.3%	7.8%	11.1%	24.4%	18.3%	10.0%	24.3%	51.4%	6.9%	11.8%	54.5%	48.2%	49.0%	47.9%	34.7%	22.9%	20.8%	15.6%	12.2%	1.7%	6.3%	2.8%	63.5%	45.8%	33.3%	28.5%			

	問9					問10					問11																														
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																										
民間	23.8%	33.8%	65.0%	18.8%	5.0%	2.5%	77.5%	68.8%	22.5%	71.3%	35.0%	46.3%	43.0%	35.0%	2.5%	1.3%	31.3%	57.5%	46.3%	12.5%	46.3%	18.8%	33.8%	61.2%	2.5%	5.0%	77.5%	22.5%	33.9%	4.8%	3.2%	11.3%	0.0%	50.0%	22.6%	9.7%	11.3%	1.6%	6.5%		
自営	11	9	16	10	1	0	0	23	16	5	11	11	6	1	0	0	6	9	12	2	3	8	15	1	0	23	4	6	1	3	4	0	8	6	2	3	1	1	1	1	1
官公庁・学校	9	8	10	6	0	0	2	16	16	8	16	6	7	9	1	0	1	10	15	13	2	14	3	9	1	3	20	3	4	1	1	1	1	1	1	10	1	3	1	1	0
臨時・パート	12	19	29	12	0	1	1	37	35	8	37	18	21	17	0	1	0	17	19	18	6	18	6	19	28	0	5	44	5	14	1	1	3	2	23	16	10	4	0	1	
主婦・主夫	12	12	24	9	1	1	1	32	28	11	28	13	17	14	17	0	0	34.7%	38.5%	36.7%	12.2%	38.8%	57.1%	0.0%	10.2%	89.8%	10.2%	31.8%	2.3%	2.3%	6.8%	4.5%	52.3%	36.4%	22.7%	9.1%	0.0%	2.3%			
学生	9	7	11	4	0	0	0	9	8	4	10	6	7	6	4	0	0	7	9	7	2	4	3	4	10	0	5	7	3	1	1	0	1	4	3	1	0	0	0		
無職	8	11	14	5	3	1	1	20	17	5	11	6	14	8	12	0	1	5	14	11	2	14	5	9	15	2	2	20	6	9	0	2	4	0	6	8	4	0	3		
派遣社員	0	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	19.2%	53.8%	42.3%	0.0%	3.8%	34.6%	57.7%	7.7%	76.9%	23.1%	45.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	15.0%				
その他	5	3	12	5	3	0	0	10	11	2	7	3	6	4	8	2	0	0	5	6	6	1	7	2	2	13	3	5	2	0	1	0	3	7	4	2	0	3	0		
不明	2	2	3	2	0	0	0	1	4	0	1	3	3	2	1	0	1	3	0	2	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1		
総合	91	99	173	68	12	5	7	211	192	59	185	89	126	108	103	6	4	5	89	143	126	28	127	41	92	162	9	21	233	54	75	9	11	23	5	108	65	38	25	5	13
	31.6%	34.4%	60.1%	23.8%	4.2%	1.7%	2.4%	73.3%	66.7%	20.5%	64.2%	30.9%	43.8%	37.5%	35.8%	2.1%	1.4%	30.9%	49.7%	43.8%	9.7%	44.1%	14.2%	31.9%	56.2%	3.1%	7.3%	80.9%	18.8%	32.2%	3.9%	4.7%	9.9%	2.1%	46.4%	27.9%	16.3%	10.7%	2.1%	5.6%	



## アンケート（質問）用紙

- 1 回答は、すべて調査票にご記入ください。
- 2 アンケート（質問）について、調査票の問の当てはまる番号に○をつけてください。
- 3 具体的に記入する問もあります。このアンケート（質問）用紙に直接ご記入ください。

- 問1 毎年8月は「差別をなくす運動月間」、12月は「人権週間」となっています。このことについて、あなたは知っていますか。
1. 知っている
  2. 知らない
- 問2 別府市では、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決をめざし啓発活動を行っていますが、あなたは、ご自身の人権意識についてどのように思いますか。
1. 大変高まっていると思う
  2. 少し高まっていると思う
  3. かわらない
  4. 悪くなった
  5. わからない
- 問3 あなたは過去3年間に、人権問題の研修会や講演会に参加したことがありますか。
1. 2回以上ある（            回）
  2. 1回はある
  3. 一度もない
- 問4 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。それとも、そのような経験はありませんか。
1. ある
  2. ない
- 問5 問4で1を選んだ人のみお答えください。当てはまるものがありましたら、いくつでも選んでください。
1. あらぬ噂（うわさ）、他人からの悪口、かげ口
  2. 名誉・信用の毀損（きそん）、侮辱（ぶじょく）
  3. 悪臭・騒音などの公害による生活妨害
  4. 差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などで、不平等または不利益な取扱いをされた）
  5. 暴力や強要、強制（本来しなくてもいいことを無理にさせられたり、権利の行使を妨害された）
  6. 労働強制などの不当な待遇
  7. プライバシーの侵害
  8. なんとなく差別されているような感じがした
  9. その他、（具体的に記入してください）\_\_\_\_\_ )

- 問6 日本にはいろんな風習がありますが、あなたはどのように考えますか。例えば、「結婚式は“大安”の日でないといけない」、「葬儀は“友引”を避ける」などの風習。
1. 風習に従うのは、当然のことと思う
  2. 気にしないが、自分だけ反対しても仕方ない
  3. 間違っていると思う
  4. わからない
- 問7 女性に関することからで、人権上、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中からいくつでも選んでください。
1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）をおしつける
  2. 職場における男女の給与等の差別待遇
  3. 家庭における夫から妻に対する暴力（酒によって殴るなど）
  4. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
  5. 売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）
  6. 必要もないのに女性の水着姿、裸体など使用した広告
  7. 女性ヌード写真などを掲載した雑誌、新聞やアダルト・ビデオ、ポルノ雑誌
  8. 女性の働く風俗営業
  9. 「令夫人」、「婦人」、「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉
  10. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
11. 特にない
  12. わからない
- 問8 高齢者がより幸せに生きていく上で、特に障がいとなっていると思われることはどのようなことですか。次の中からいくつでも選んでください。
1. 経済的に自立が困難なこと
  2. 働ける能力を発揮する機会が少ないこと
  3. 悪徳商法の被害者が多いこと
  4. 家庭内での看護や介護において「ひどいあつかい」等や虐待をすること
  5. 病院での看護や養護施設においては劣悪な処遇や虐待をすること
  6. 高齢者を邪魔者扱いにし、つまはじきすること
  7. 一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安やそれらによる不便があること
  8. 転居や施設入所などによる生活環境の変化に対する不安があること
  9. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
10. 特にない
  11. わからない
- 問9 子どもに関することからで、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中からいくつでも選んでください。
1. 「仲間はずし」や「無視」、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなど、いじめを行うこと
  2. いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること
  3. 学校で、教師による体罰が行われていること
  4. 親が言うことを聞かない子どもに暴力を加えたり、子どもの世話をしないこと



5. 進学先や就職先の選択など、子どもの意見、希望について、大人がその意見を無視すること
6. 学力による評価が優先し、多様な能力が評価されないこと
7. 家庭の経済状況等が理由で、子どもが自己実現できないこと
8. 児童買春・児童ポルノ等に関すること
9. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
10. 特になし
11. わからない

問10 あなたは、障がい者の人権上の問題について、現在の状況をどのように考えますか。問題と思われるものを次の中からいくつでも選んでください。

1. 結婚問題で周囲が反対すること
2. 就職・職場で不利な扱いをすること
3. 差別的な言動をすること
4. 悪徳商法の被害者が多いこと
5. アパートなど住宅への入居が困難なこと
6. スポーツ・文化活動・地域活動に自由に参加できないこと
7. じろじろ見られたり、避けられたりすること
8. 人々の障がい者に対する理解が足りないこと
9. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
10. わからない

問11 あなたは、同和問題について知っていますか。

①知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

②知っている人は、知ったきっかけは何ですか、次の中から選んでください。

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）から聞いた
2. 親戚の人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 学校の友達から聞いた
6. 学校の授業で教わった
7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
8. 同和問題の集会や研修会で知った
9. 都道府県や市等の広報紙や冊子で知った
10. 同和問題を知ったきっかけはおぼえていない
11. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

問12 あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

1. 結婚問題で周囲が反対すること
2. 就職・職場で不利な扱いをすること
3. 差別的な言動をすること
4. 差別的な落書きをすること
5. 身元調査をすること
6. インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること
7. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
8. 特にない
9. わからない

問13 別府市では、ハンセン病に関する啓発のため、パネル展を実施していますが、知っていますか。

①パネル展について、知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

②もし、身近にハンセン病回復者がいたら、どのように対応しますか。

1. 何かできることがあれば支援する
2. ハンセン病回復者だからと言って、接し方は変えない
3. なるべく関わりたくない
4. わからない
5. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

問14 国内の人権問題で、特に関心がある問題を次の中からいくつでも選んでください。

1. 女性をめぐる問題
2. 高齢者をめぐる問題
3. 子どもをめぐる問題
4. 障がい者をめぐる問題
5. 同和問題（部落差別）
6. アイヌ民族をめぐる問題
7. HIV感染者をめぐる問題
8. ハンセン病患者をめぐる問題
9. 外国人労働者（家族を含む）の問題
10. 在日韓国人、在日朝鮮人の問題
11. 犯罪被害者やその家族をめぐる問題
12. 刑をおえて出所した人に関する問題
13. インターネットに関する問題
14. 性的指向や性同一性障がいの問題
15. 一つもない
16. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

問15 あなたは、小中学校・高校における人権教育をどのように考えますか。

1. もっと積極的にすべきだ
2. 現在のままでよい
3. あまり必要ない
4. わからない

問16 人権問題を正しく理解するために、より効果的な啓発活動は、どのような方法がよいと思いますか。効果的な方法について、次の中からいくつでも選んでください。

1. 広報紙で啓発する
2. 新聞で啓発する
3. テレビ・ラジオで啓発する
4. 地域での懇談会などの啓発活動を充実する
5. 講演会、研修会などの啓発活動を充実する
6. 冊子・パンフレットなど広く配布する
7. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

問17 あなたは、人権が守られる社会をつくるためにどうしたいですか。

1. 努力したい
2. 努力している
3. 何かしたいが、どうしたらよいかわからない
4. 生活に精一杯でそこまで考えられない
5. わからない

問18 インターネットの中で行われていることに関して人権上問題があると思われるものを次の中からいくつでも選んでください。

1. 他人を誹謗（ひぼう）・中傷する表現を掲載すること
2. 差別を助長する表現を掲載すること
3. 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること
5. ポルノなどがネット上で野放しになっていること
6. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）
7. 特にない
8. わからない

問19 あなた自身についておたずねします

①あなたの性別は、下のいずれですか。

1. 男
2. 女

②あなたの年齢は、下のいずれですか。

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代以上

③あなたの仕事（職業）について

1. 民間の会社や工場に勤めている
2. 自営業（農業・林業・漁業を含む）及び家族従業員
3. 官公庁（国、県、市町村の機関）か学校に勤めている
4. 臨時やパートで働いている。（勤務先の種類に関係なく臨時やパートの人）
5. 主婦・主夫（どこにも勤めず、専ら家事・育児をしている人）
6. 学生
7. 無職
8. 派遣社員
9. その他

人権問題に関する別府市民意識調査報告書

平成23年3月発行

編集・発行

別府市生活環境部人権同和教育啓発課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL 0977-21-1291

FAX 0977-23-0552

印刷 大屋印刷株式会社

〒874-0918 別府市汐見町3-4

TEL 0977-23-7141





